

大震災・母と子

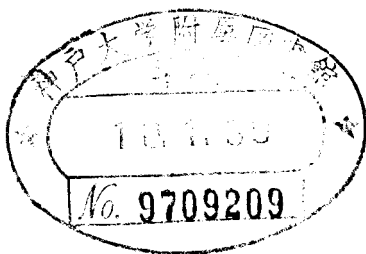
阪神・淡路大震災を体験した
妊産婦373人の発言

兵庫県産科婦人科学会
兵庫県医師会

震災文庫 10 - 252

大震災・母と子

阪神・淡路大震災を体験した
妊産婦373人の発言



兵庫県産科婦人科学会
兵庫県医師会

序 文

兵庫県産科婦人科学会と兵庫県医師会は1995年の秋に、兵庫県下の全産科施設、産科医師、妊産婦などを対象として阪神・淡路大震災についてのアンケートを行い、その調査結果を「阪神・淡路大震災のストレスが妊産婦および胎児に及ぼした影響に関する疫学的調査」の報告書(1996年3月刊行)およびその補遺(1996年9月刊行)としてまとめた。

前者は産科施設や産科医がとった地震への対応や被災の状況、妊産婦および乳幼児への影響をはじめ多項目について調べ、後者は地震の時に被災地域(10市10町：第1章に列記)に居住し、1995年1月17日から同4月16日までに出産した妊産婦が「地震に限らず、大災害、風水害などの非常事態にさいして、妊産婦に対する医療や援助などで、どのようなことを希望されますか」という質問に無記名で寄せた回答1924通の全文を収録したものである。

これらは阪神・淡路大震災という未曾有の災害について産科学的側面からその実情を明らかにし、妊産婦の生命と健康の擁護を天職とする産科医師がその責務を果たし得たか否かを自省するとともに、今後も起こるであろうこの種の危機に対し、国の内外を問わず基本的対応策を検討していただくための参考資料として刊行したため、主として産婦人科医師、行政機関に配

布した。しかし、災害に備える取り組みは医師や行政にとどまらず、国民一人ひとりも自ら考え、具体化すべきものであるから、広く一般の参考に供するための書物を編集したいと考えた。このため、本書は前記2書のうち、妊産婦による記録を集めた「補遺」を主軸として構成することにしたが、その内容は分量が多いので、本書にはその約2割を収録して記述内容を項目別に整理し、これに「報告書」のデータの一部などを取り入れた。また、読者の中には兵庫県にはなじみの薄い方や妊娠・出産について経験のない方も少なくないであろうことを考え、妊産婦の手記内容を理解する一助として、阪神・淡路地域の簡略な案内と妊娠・出産の基礎知識を最初の2章に補足した。

大震災について医師や看護婦などが執筆した書物は数多く出版されたが、医療を受ける側の人たちによる記録をまとめたものは稀であり、この点でも本書は意義あるものと考えられる。

1998 年 1 月 17 日

兵庫県産科婦人科学会
兵庫県医師会

凡 例

1. 本文中の「 」内は妊産婦による手記の全文または一部で、これに続く（ ）内は、本人の被災地〔市・区・郡〕/出産した医療施設の所在地〔市・区・郡〕、出産した月/日、妊娠週数/初産または経産の別/分娩様式〔自然分娩・吸引分娩・鉗子分娩・帝王切開〕を示す。
2. 固有名詞は伏せ字とした。
3. 誤字、脱字、句読点などは読み違いされるおそれがある場合のほかは原文のままとした。

目 次

1. 阪神・淡路の地理と被災の地域差	1
2. 妊娠・出産の生理と経理	5
3. 模範解答派と体験記述派	10
4. 1995年1月17日	12
5. 避難	15
6. 一番困ったこと	21
7. 水、水、水！	22
8. 風呂	28
9. モノとカネ	33
10. 交通マヒ	45
11. 歩く	51
12. 妊産婦の不安	54
13. 医療情報	59
14. “ひとこと”の効果	67
15. 地震当時の病院	73
16. 病院間の連携	80
17. 医療要員	92
18. 行政	98
19. 母と子	100
20. 非常事態で考えたこと	105
21. 被災して体験したやさしさ	108
22. 多項目にわたる意見	109
23. 1924人の意見分布	126
24. 追悼	135
25. 常二備へヨ	139
26. みんな元気ですか	140
編集後記	143

1. 阪神・淡路の地理と被災の地域差

阪神・淡路大震災で震度7を記録した地域(烈震地帯と略記します)とその周辺を図1に示しました。表1の死亡者は大部分が烈震地帯に住んでいた人びとです。同表では市や区によって人口に対する死亡者の率が著しく異なっていますが、それぞれの市や区の中に烈震地帯がどれほど含まれていたかが大きな要因となっています。

国土地理院が刊行した被災地図(*)を見ると、同じ行政区内でも被災の地域差は大きく、たとえば、犠牲者の最も多かった神戸市東灘区でも、烈震地帯から離れるほど家屋の損壊も軽いという状況を読み取ることができます。尼崎市で地震にあった妊婦の一人は、「まず第一に病院の被害状況が知りたかったです。私の自宅の被害が少なく幸い電気、ガス、水道共にその日のうちに使用できましたがおなじ市内の中で電気がこない、水がでない、なんてことは私たち市民にはわからなかったことで、うわさにより連絡し自ら確認しなければならない。でも電話はなかなか通じない。こんな不安はこれっきりにしたいと思います」(尼崎/尼崎 1/20 38/初産/帝切)と、同じ市内で電気や水が使えない地域もあったという“意外な事実”をあとから知った

(*) 国土地理院：平成7年兵庫県南部地震災害現況図。全21枚。1995年4月。

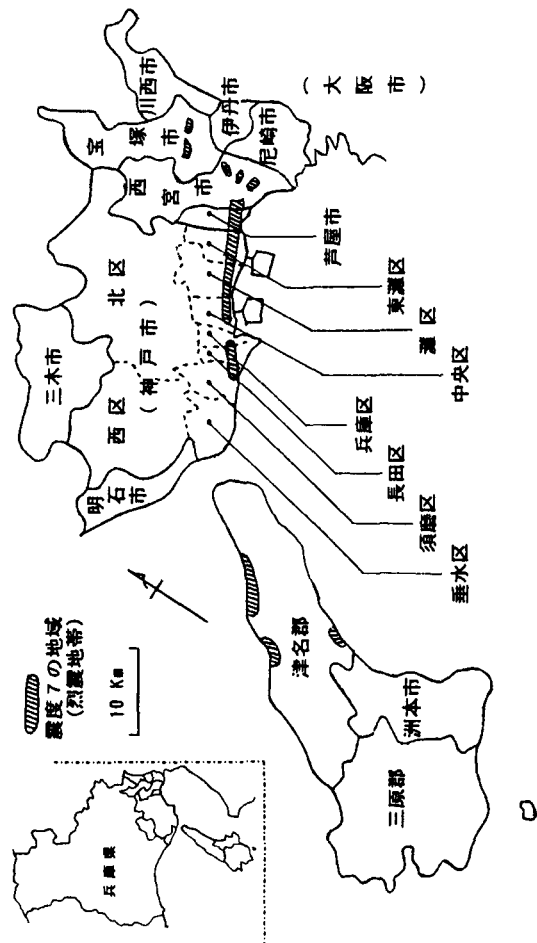


表1 災害救助法で指定された地域(大阪市は除く)と烈震地帯

表1 阪神・淡路大震災による地域別死亡者数

地 域	死亡者数	死亡者数 (人口10万対)
川西市	1	0.7
伊丹市	11	5.9
尼崎市	27	5.4
宝塚市	90	44.0
西宮市	1049	246.4
芦屋市	414	472.8
神戸市(計)	(3942)	(266.8)
東灘区	1317	691.9
灘 区	858	662.2
中央区	213	183.2
兵庫区	435	351.0
長田区	750	547.9
須磨区	348	185.0
北 区	9	4.5
垂水区	7	3.0
西 区	5	3.2
三木市	1	1.3
明石市	6	2.2
津名郡(北淡3町)	53	139.4
洲本市	4	9.3
三原郡	—	—

注. この表に示された被災による死亡者数は、1995年3月31日現在で、その後に各自治体がまとめた震災死亡者の総計は6394人となっている(1996年12月現在)。

ことを記していますが、他方では地震当日でもガスや水にほとんど不自由しなかった地域が尼崎市内にあったことをこの手記で知って、びっくりする人も多いのではないのでしょうか。また、非常事態への対策・要望をアンケートされても被害が比較的軽かった居住地の人たちの中には、「神戸市内といえども、非常事態にさらされることが幸いにしなかったもので、その必要性については、ピンときません」(西/三木 3/3 40/初産/自然)、「大地震があったものの、私自身無事出産できたので不便さがわかりません」(伊丹/伊丹 4/639/初産/自然)、「今回の地震でも、交通の便以外に別に困った事が、なかったので、考えつかない」(垂水/須磨 4/17 37/経産/自然)など、これらと同じ趣旨を答えた人はほかにも数人ありました。

地震で味わった一人ひとりの体験はそれぞれに貴重ですが、被災状況の違いが個人の感じ方や考えに影響する場合も少なくありません。第3章から紹介する手記を()内の被災地と対照しながら読めば、このことに気づかれる事例が少なくないと思います。多人数の手記を集めた本書によって、同じ地震でも自分とは違った条件におかれていた人、そのために自分とは異なる考えや感じ方もあることを互いに理解し、より広い視野で震災を今一度見直すのも有意義ではないのでしょうか。

表2は序文に記した「報告書」を作るために

表1の人口10万対死亡者数によって被災地域を分類したもので、本書の表4～10でもこの分類を使用しています。災害救助法で指定された10市10町以外は表2では無被害地区と記していますが、実際には明石市の西に隣接する加古川市で2名が被災により亡くなっています。

表2 報告書(序文参照)での震災の地域分類

地区	人口10万対 死亡者数	該 当 地 域
激甚	500～	東灘区、灘区、長田区
強度	40～499	中央区、兵庫区、須磨区、 西宮市、芦屋市、宝塚市、 津名郡
軽度	1～39	北区、垂水区、西区、明石市、 尼崎市、川西市、伊丹市、 三木市、洲本市、三原郡
無		上記以外の兵庫県

- 注 1. 地区欄の激甚、強度、軽度、無は地震による被害度を死亡者の率で分類した。
 2. 区はすべて神戸市、津名郡は淡路、北淡、東浦、一宮、津名、五色の6町、三原郡は緑、西淡、三原、南淡の4町よりなる。
 3. これらの10市10町が災害救助法によって指定された。

2. 妊娠・出産の生理と経理

お母さんの子宮の中で精子と合体した卵子は細胞分裂を始め、次第に大きくなった細胞の複

雑な集合体として赤ちゃんが生まれてきます。成熟した女子にはほぼ1カ月の周期で月経（俗に“生理”）とよばれる出血がみられることはよく知られています。精子と卵子の結合、すなわち妊娠が起きると出産するまでこの周期的出血は止まるので（例外はありますが）、産科学では最終月経の初日から数えて280日（40週）後の日を出産予定日としています。通常の出産はこの予定日前後に多く、図2に示したように、第37週から第41週までの出産は正期産、第36週までの場合は早産とよばれています。妊娠期間は週数で数えることが国際的に決められていますが、わが国では月数で数える習慣が長く続いていたので、本書に記された妊産婦の手記にも月数による記録が少なくありません。なお、この場合のひと月は4週であり、最初の期間は週の場合は0、月の場合は1から数えます（図2参照）。

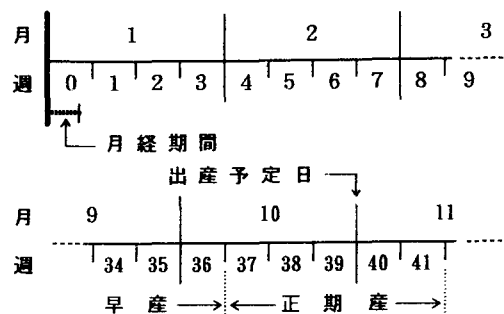


図2 妊娠期間の数え方と出産予定日

本書の手記に時たま使われている“臨月”ということばは“胎児が生まれる予定の月”などと辞典に書いてありますが、定義としてはあいまいな点があるので、学術用語としては使われていません。

おなかの中の赤ちゃん、胎児の生育状況や妊婦の健康状態を調べるために妊婦の定期的健康診断は欠かせません。妊娠が順調な場合、妊娠7カ月までは月1回、8・9カ月には2週間に1回、それ以後は週1回が標準的な受診頻度です。なお、妊婦の場合に限らず、この種の医学的措置は従来“検診”と書かれるのが普通でしたが、健康診断の略記として、あるいはまた、単に検査するだけではなく、あくまで健康に寄与する業務としての意味を込めて、“健診”と記されることが昨今では多くなっています。

胎児が十分に大きくなると、胎児を押し出すために子宮の筋肉は収縮し、子宮の出口が開き始めます。この筋肉収縮で感ずる痛みは陣痛とよばれ、陣痛と陣痛の間隔は始めのうちは長く、出産間近になるほど短くなります。図3は陣痛が始まってから出産するまでの時間経過を横軸に、開いた子宮口の直径を縦軸に描いたグラフで、初めてお産をする初産(ういざん)では14時間あまり、2回目以後の経産では8時間ほどかかるように読み取れますが、これは産婦に異常のない場合を標準的に図示したもので、実際のお産にかかる時間にはかなりの個人差があります。

胎児は羊水という水分を満たした薄い袋(羊膜)に包まれた状態で子宮内におさまっているのですが、子宮から出る前に、羊膜を破らなければなりません。羊膜が破れると羊水が体外へ出ますが、これを破水といいます。破水から出産までの時間は、初産では1時間、経産なら20～30分ぐらいが普通です。

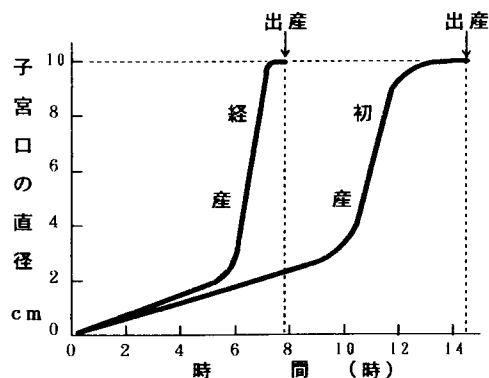


図3 出産の時間経過でみた子宮口の拡張度
(Friedman の原図に基づいて作図)

胎児が子宮から母体外へ通り抜ける道(産道)は狭いので、通過しにくい場合には専門医が適当な手段を選びます。ラッパのような金属管を胎児の頭部に密着させ、頭部と金属管の間を陰圧に保ちながら、管を引っ張ることによって出産を助ける“吸引分娩(ぶんべん)”(分娩は出産と同

義語)、鉗子(かんし)とよばれる金属製の器具で胎児の頭部をはさみながら引く“鉗子分娩”、これらの方法でも困難と思われる場合には母体の腹壁と子宮を切開して胎児を取り出すこともあり、“帝王切開”(本書では帝切と略記)とよばれています。これらのような処置を必要とせず、ごく自然な生理的現象として胎児が生まれてくる場合を自然分娩といいます。妊婦の定期健診で母親にも胎児にも異常を認めない場合、陣痛の間隔が30分ほどになれば入院するように指導され、出産や産後にもとくに問題がない場合は5～7日ぐらいで退院するのが普通です。

いつ起こるかわからない病気やけがなどに備えて、健康保険や国民健康保険などの相互扶助制度に国民が加入することになっているのはご承知のとおりです。上記の吸引分娩や帝王切開など、医師による特別な技術的処置が必要だった場合は病気の場合と同様に健康保険制度による医療給付が利用できますが、もともと出産は生理的現象であって病気ではないという考えから、正常な出産、本書で“自然(分娩)”と記録されている場合は健康保険の医療給付が適用されず全額自費負担となり、病院によって必要経費は異なりますが、入院費なども含めて30～50万円ほどかかりますから、新しい生命を迎え入れるためとはいえ、経済面ではかなりの負担です。この負担を軽くするために、1児について健康保険では30万円の出産育児一時金、国民健

康保険の場合には23万円弱の出産育児給付があります(*)。

なお、妊娠した場合は保健所長を経て市区町村長に妊娠を届け出るよう法律で定められており、この届け出によって交付される母子健康手帳には、母子が受けた健康診査や保健指導の内容を子供が小学校へ入学するまで記録することになっています。

3. 模範解答派と体験記述派

アンケートの質問は「地震に限らず、大災害、風水害などの非常事態にさいして、妊産婦に対する医療や援助などで、どのようなことを希望されますか」となっていますから、今後にも起きるであろう大災害に備えて希望する事項や助言を求めているという印象を受けます。回答のひとつに、「その場になってみないとわからないと思います」(尼崎/尼崎 3/31 39/経産/自然)というのがありました。兵庫県の南部に大地震が起こるなどと予想していた人はほとんどいませんし、想像をはるかに超えた被害と混乱を目のあたりにすると、医療や援助の希望を述べても現実的には当てにできないという想いがこの回答にはこめられているようで、言われてみれ

(*) 出産育児一時金は1997年現在、国民健康保険の出産育児給付は1995年度の全国平均。

ばご尤も、質問した側としては肩透かしをくった感じがしないでもありません。

前記の質問がアンケートでなく試験の答案であれば、希望する総論的事項を「どのような場合でも分娩出来るような設備と精神的な支えとなる看護を希望したい」(西宮/東灘 4/11 41/初産/自然)とか、「生まれたばかりの新生児の安全性だけは絶対に守ってあげて下さい」(垂水/垂水 1/18 40/初産/自然)と簡潔に記したり、具体的な内容を、「◇どこのどの病院又は医院で診察可能なのか、早く知らせてほしい。◇ナプキン、紙オムツ、ミルクの迅速な支給。◇妊産婦、新生児、乳児専用の清潔な部屋の確保。◇妊産婦、新生児、乳児専用のおフロの完備」(明石/須磨 2/7 35/初産/帝切)というように箇条書きしたり、総論と各論を併記するのが「模範解答」でしょうし、質問に直接は関係のないこと、たとえば被災体験などを書き連ねて答案の「水増し」をすると、減点される場合がないとも限りません。この観点から分類すると、「模範解答」的に答えた人は全体の約 1/3あり、残りの人たちは回答欄に多少とも被災体験を綴っていました。

これら「模範解答」も「体験記述」もそれぞれに貴重であり、両者の間に優劣の差などあるわけではないのですが、本書を作るにあたっていろいろ迷い、考えあぐねた末に、「模範解答」の方がたには申しわけないことながら、寄せられ

た回答の中からおもに“体験記述”を抽出して本書を構成することにしました。

4. 1995年1月17日

地震は当然のことながら、出産日には全くおかまいなしに起こります。2000人近い回答者の中で、地震の起きた日に出産した人は24人ありました。次はそのうち7人の体験です。

「震災の当日1月17日に出産しましたが地震発生の2時間程前のお産でした。浜側の方に比べ北区の病院は被害も少なく入院中、特に不便は感じませんでした。ただ帝王切開だったので自分自身の身体が動けず、次に大きなのが来て建物が壊れたら助からないな——と思い、とてもあせりました。他の病院からの患者さんやショックで流産しかかった方がたくさん来られて、みなさんとても忙しそうでした。私自身はほとんど地震の不便さを感じることなく（病院にいたため）退院、実家で2週間程過ごし、家に帰った頃には、平常通りに生活をすることができました」（北/北 1/17 34/帝切）。「私は震災の2時間30分後に出産をしました。あの時、看護婦さんたちはすぐ赤ちゃんのいる所へ走って行きました。“この子達を守らないと！”そう言いながら必死でした。私はあの時、処置室で看護婦さんという仕事の大変さ責任感に感動しました」（尼崎/尼崎 1/17 38/初産/自然）。「私は

1月17日の午前4:00頃、陣痛が始まり、入院した矢先に病院にて地震にあい、そしてその日の午後3:45分に出産致しました。私の場合は特別だと思いますが、まず分娩室はメチャクチャになって暖房がきれた中、毛布やふとんにくるまって震えながら出産いたしました。出産ギリギリまでDr.やナースは私のことなどかまってくれないのが現状で大変こわく、不安でした。あのような事態の中では、本当に最新医療やシステムも“無”という感じでした。まず“水”が出なく、飲むことも、シャワーも、もちろんトイレ（他人の便の上に自分の便をかさねていく）はとてはずかしく、情けなかったです。子供も産湯にもつかれず頭に血がついたまま。暖房のかわりに毛布や衣服にて調整しておりましたのでカゼをひかせないだろうか、そして食事がパンやオニギリ2コだけといった中、母乳の栄養面もとても心配で余震で壁が私達のベッドにパラパラと落ちてくるたびに“もうこのままだめかも”と毎日覚悟して産後まる3日間眠らずにすごしました。やはり病院という所はまず水だけはどんな事態にもできるようにそして食事等のもしもの時のルートを県外からかくほして頂きたい」（西宮/西宮 1/17 40/初産/自然）。「地震当日の夕方出産してそのまま1週間入院しました。野戦病院のような院内で通常の医療が受けられるとは思っていないのですが、本当ならば受けられるはずの手当てや医療を何ら説明が

ないまうけずに退院したことに不満と不安を覚えました。また、退院後私自身精神的におかしくなりカウンセリングしていただきました。地震と出産が重なったせいで大きなストレスがかかり失感情症、失体感症になったとのことでした。入院中にそういうことに関するカウンセリングが受けられればよいと思います」(東灘/東灘 1/17 38/初産/自然)。「私の出産した〇〇病院は被害が少なかったものの、激震区だったので、近所の人々の救助に行ったり避難されている人々で病院はてんやわんやだった。私は3人目の経産婦なので不安はそんなになかったが、結局、その日(地震の日)の夜に出産した。スタッフたちは暗い中、懐中電灯をたよりによくがんばってくれた。しかし、入院中の1週間、病院に来られないスタッフもいたりで、人手がたりないのか、薬を忘れられたり、何かと忘れられたりで仕方ないとわかってるがとても不安だった。ベビーも産まれてすぐ夜中も私と一緒にだったので寝不足で、とてもイライラ不安がつった。とてもいやな入院生活だった。スタッフも大変だとわかってるが、思い出したくない入院生活だ。もっといたわって(母も子も)くれたら…と思う。けれど、この病院は産まれると花束のカゴをプレゼントしてくれるのだが、今回は、だめだなと思っていたら、バラ1輪とカードを看護婦から頂いた。 ”こんなんでごめんね…”と言って……。 とてもとても涙が出る

ほどうれしかった。このように、どんなに大変な中でも、1人1人患者に対する誠意を失わないでいてほしいと願います」(須磨/須磨 1/17 41/経産/自然)。「私は、地震の日に出産し、地震の為かどうか分かりませんが、ほとんど母乳が出ず2カ月程混合でしたが、その後ミルクになりました。精神的なものもかなりあったのでは…と思っています」(西宮/伊丹 1/17 40/初産/自然)。「私の赤ちゃんは地震当日にうまれたのでうぶ湯がつかえずウェットティッシュで血などをふいてもらいましたが、それだけでも私はうれしかったのですが、2日くらいたって少量の水が手に入ったとかでそれをわかってもらい、体をふいてもらって本当にうれしかったです。水、清浄綿、ウェットティッシュが本当に欲しかったです」(尼崎/尼崎 1/17 38/経産/自然)。

5. 避 難

「私は小学校に避難しなくてすんだのですが、もし、あの底冷えする所に寝泊まりしていたらと思うとゾッとします」(灘/灘 3/3 38/経産/帝切)。しかし、住み家を失った人たちは学校や公民館などへ避難するほかはありませんでした。体育館は天井が高いうえに暖房設備はなく、人の出入りが多い入口は冷たい外気に向けて開放されたままでした。「震災直後から、避難所

の小学校にいましたが、門が開いていただけで、なにもなく、昼頃になってやっと校舎の入り口が開いただけでした。ケガをしている人や風邪をひいている子供もいてせめて保健室だけでもすぐあけてほしかった」(須磨/加東郡 2/8 38/経産/吸引)。「寒い時期では、避難所において防寒具(毛布など)を優先して、充分に与えてほしい。(まだもらっていない人もいる、という理由で家族3人に1枚しか毛布がもらえず、つらい一夜を過ごした経験から)」(伊丹/川西 4/13 39/経産/帝切)。「私自身は避難所では1晩すごただけですが、冬だったので冷えが心配でした。また、人が多勢ひしめいているため空気も悪く、ゆったりと体を横にしたりすることもはばかられました。できれば妊婦は妊婦ばかりの避難所とか、赤ちゃんをかかえた人だけの避難所とかあれば気もあまり使わず、共通の話題で話ができて心強いと思う。私は子供が泣くたび、“ああ、あの時うまれてなくてよかった”と今でも思います」(東灘/高砂市 3/17 40/初産/帝切)。「宝塚の避難所にいましたが“妊婦がこんなところにくるな”と知らないおじさんにいわれたことがかなしかった」(明石/明石 3/16 40/初産/吸引)。「避難所でも、できたら他の人と別にした方がよいのではないかなと思う。それは、夜泣き、食事中でもオムツをとりでかえなければいけなかったりすると、両親も周囲の人にも気疲れするのではないかなと思うからで

す。逆に赤ちゃんがいるという事で皆がほのぼのする事もあると思うが」(津名/洲本 1/23 39/経産/自然)。「どんな場合でも妊婦や新生児だけは体育館や校舎などでなく一般家庭や特別な場所に移してあげてほしいです。国会議員やマスコミの人がこれるのであればその交通手段で無理をしてでも助けてあげて欲しい。被害が少なくても大変なのに妊婦の精神的ダメージや赤ちゃんがおふろにはいれないとかおむつがないとか信じられない情報はいり悲しくなりました」(尼崎/尼崎 3/14 37/初産/自然)。「10ヵ月になる体で体育館はきつかった。妊婦といってもみんなと同じあつかいだった」(西宮/尼崎 1/30 39/経産/自然)。「妊娠中の人が避難所に行って流産したり早産したということを新聞で見ました。寒い時期だったので冷えたらしいです。すごくかわいそうでした。妊婦にはもっと大切にしていってあげて欲しいです」(尼崎/尼崎 2/16 39/初産/自然)。

アンケートの回答欄にただひとつ、「避難所生活はしんどい」(西宮/尼崎 4/11 40/初産/帝切)と書いた人、「避難所で暮らすのはお母さんにもおなかの赤ちゃんにも絶対よくないと思う」(尼崎/尼崎 3/30 38/経験/自然)、「長期になりそうな場合はライフラインの整った安全な地域に避難所をつくってもらってそちらへはいるようにする。被災地の避難所ではあまりに生活環境が悪すぎる」(中央/須磨 1/29 40/初産/

自然)と記された意見。 たしかにそのとおりですが、全壊家屋178、174世帯、半壊257、404世帯、焼失家屋7456世帯と一時に多数の被災者が生じたため、この避難所にすら入りきれない人びとはテント、ダンボール、自家用車、倒壊した家の木材、建築用のシートなどを持ち出し、これらで組み立てられた急造の住まいで運動場や公園も一杯になりました。「体育館や公園でも寒いところばかりで、トイレは近くなり大変でした。みな我先にとマットをしきつめて陣取り、妊娠婦の事など考えられなかったみたいです」(兵庫/明石3/5 39/初産/自然)。「避難所や車内で約1カ月間過しましたが、やはり集団の中なので安眠が出来なかった。妊婦は薬も飲めない、風邪の流行などで、つらい思いをした。体も思うようには動けないので、避難所でいろいろ手伝うことがしにくく、他の人にも迷惑をかけた」(須磨/垂水 4/6 41/初産/自然)。「情報が全くつかめず一般の方と車を公園のなかへいれて夜は寒かったのでいっしょにシートをいす状態にして寝たりしていてお腹がはったりまた今まで以上に気をつかったりと大変でした」(灘/灘 2/1 40/経産/自然)。

公共の建物も広場も満杯になると、余震で崩落するかもしれない亀裂の入ったわが家で雨露をしのぐか、それともほかに手段はないものかと思ひ悩んだ被災者も少なくなかったと思います。「私も地震以来、半月ほど断水状態が続き、

いつ、どこで水がもらえるのか情報が入ってこない、不安で仕方がありませんでした。こわくて外にも出れず、避難所の方々よりもひどい食生活の為、むくみが増え、精神的にも落ち込みました」(伊丹/伊丹 3/16 37/経産/帝切)。「市役所へ行っても、“時間外” “手続していない” 等で何も手に入らず、親類宅へ身を寄せるより仕方がなかった。妊婦に限らず老人など避難所生活をする程ではないが家に一人で居る者が一番困ったと思う。“取りに来たら渡す”ではなく“取りに来れない者”への配慮が欲しい」(西宮/西宮 4/18 37/初産/帝切)。「電話が送・受信、119番、110番まで全く通じなかったので大変不安でした。夫は医療従事者で地震の後はずっばりで幼児を二人かかえ、自由にならない身体で大変不安でした。結果として被害なしと同様だった、としても、誰にも頼れずに怖い思いをした人は多いはず。一時的に身を寄せる場所か、そこまで連れて行ってくれる手段があれば、と切実に思いました」(尼崎/尼崎 3/22 39/経産/自然)。「出産前は避難所等でも、何とか生活できますが、出産後が大変困りました。何とか自宅に帰っても雨もり屋根の修理等でゆっくりできず子どもをあちこち移動、産後しばらく安心していられるところがあれば非常にたすかだと思います。退院後1週間位で母乳もでなくなりました」(尼崎/尼崎 1/20 41/経産/自然)。「私は被害の少ない所でしたがそれ

でも日々の生活の買い物さえ大変でエレベーターのとまってしまったマンションではほとんどじこもりっぱなしでした。近くに実家があり友達もたくさんいたのでずいぶん心身両面で助けられました」(北/北 2/14 40/経産/自然)。

やがて、仮設住宅の建設が始まりましたが、激震地の公園などはまだ“テント村”のままですから、まとまった仮設住宅群は家を失った人たちの居住地よりかなり離れた地域につくられることになりました。通勤・通学の不便さに耐えること以前の問題として、仮設に入れるための“くじ運”が第一の関門でした。「今回の地震で、神戸市では、仮設住宅の入居申込に優先順位をもうけられましたが、尼崎市では、妊産婦又は、乳幼児のいる家庭等について、優先は一切ありませんでした。今までの災害(台風・地震など)で、とくに思うことは、妊産婦に限らず、老人や子供(弱者)に対しての援助が必要不可欠だと思います」(尼崎/尼崎 2/13 40/経産/自然)。「自宅が全壊となり、落ち着いて暮らす場所がなく、仮設住宅にも落選し、尼崎も神戸のように妊婦優先で仮設住宅へ入れて欲しかったです。赤ちゃんを迎える家がないとゆうのは、なんとも情けない気持ちでした」(尼崎/尼崎 2/11 40/初産/吸引)。「妊婦優先」と“うらやましがられた”まちに住んでいた妊婦の証言、「地震で家が半壊になり市に仮設のことを聞くと妊婦だからといって仮設は入れませんと

いわれ雨の日10カ月のおなかで1才4カ月の子供を抱き必死で不動産屋をまわり家をさがしました。でも今現在でも仮設はいっぱい空いている。市職員の対応の悪さ、国の対応の悪さ、仮設の人は医者代も今年はただでも仮設でない人はだめなどといろいろ不公平ばかりあり、自分のことは自分でと思い希望しても現実にはならないとあきらめの気持ちだけです」(北/北 4/2 40/経産/自然)。「私の主人の両親が3DKの私達の家に避難してきたのですが2才1カ月の上の子供もおり私自身も出血ぎみで体の調子が悪かったが気を使うことが多く大変だった。そんなとき仮設住宅に早くあててもらえば家族だけになりすこしは体もらくになれたのと思いました」(宝塚/宝塚 3/30 39/経産/自然)。

6. 一番困ったこと

大地震の不意打ちを受けた地域では生活のすべてが瞬時に一変しました。昨日まで元気だった家族や知人の死亡は言うに及ばず、日常生活の便利さはあえなく消え、混乱と困惑が渦巻くことになった一端は前章で見たとおりです。

「一番困ったことは電話が1カ月近く使えなかったのでもし1人で家にいて出産が間近のとき病院、救急車、誰にも連絡ができないことです」(尼崎/尼崎 2/14 40/初産/自然)。「一番心配だったのは、やはり健診が出来ないのが、

こわかったです」(北/中央 3/1 39/経産/自然)。「医療や援助よりも何より不安感を取り除いてもらえるのが一番です」(尼崎/伊丹 2/21 41/経産/自然)。「今回の地震で一番感じたのが、交通のマヒです。もしお腹の赤ちゃんが何かの異常があった場合、病院までの交通マヒを心配しました」(垂水/高砂市 3/1 38/経産/自然)。「なんといっても食事。地震の初日、2日……と食べ物がないで困った」(西宮/伊丹 1/29 33/経産/自然)。「私が今回の大震災で一番、考えたり、悩んだりした事は、家族についてでした。主人の家族と同居という事になってしまったのですが、入院中もその事を考えるとイライラしたり悩んだりでおなかの子供には、とてもよくない状況だったと思います。その様な時に、相談できる様な人がいればよかったと思います」(東灘/中央 2/11 36/初産/自然)。震災で一番困ったこと、不安だったことは、人によってこのようにさまざまですが、この点について最も多く記されたのは水不足でした。

7. 水、水、水！

「今回の地震では、水の確保が一番大変でした。一日一日体調がおかしくなっていくのがわかりましたが、水くみを休むわけにもいかず、もう少し水の出るのがおそければどうなったとか」(須磨/須磨 3/18 39/経産/自然)。水枯

をひねれば、きれいな水道水がいくらでも出てくるのは当たりまえ…しかし、当たりまえが当たりまえでなくなった被災地の人びとは途方にくれました。地震で地中の水道管が“運良く”こわれ、路面に水があふれ出した場所にはバケツや鍋を持った人々がむらがり、給水所と標示された地点では、いつ来るかもわからない給水車を待ちわびる行列が延々と伸びていました。行列の1例をヘリコプターから写した写真には490人ほどが確認されますが(*)、画面からはみ出している人も多く、ただひたすらガマンの雰囲気伝わってきます。

やっと給水車が到着しても、さらなる苦労が妊婦たちを待ち受けていました。「水がでなくなり大きなお腹をかかえて小学校まで水をもらいにいきました。給水車がくるまで雪がちらちら降る中2時間待ちましたがお腹がはってきたのであきらめて帰りました。その夜20日早く陣痛がきました。関係があったのかわかりませんが、生まれてからも水がなくてとても不自由でした。友人も子供をかかえて水くみはとても大変だったそうです。近くですぐに水の確保できる場所があればいいと思います」(西/西 1/19 37/初産/自然)。「今回の震災で最も困ったのは水が出ない事でした。給水車は来てくれましたがマンションの13階に住む私にはその水を

(*) 朝日新聞(夕刊). 1995年1月18日付。

運ぶことができず結局親戚宅に避難することになりました。水がなくて困ったのは皆さん同じでしょうが重い物を持ってない後期の妊婦には、給水車が来るだけの水の援助はあまり援助とはならなかったようです。何か方法はないものでしょうか」(須磨/明石 4/5 38/経産/帝切)。
「一番こまった事は、水不足で、夫が仕事にでて日中不在のため、給水車がきてくれても、長〜い間、立ってられないし、水を持ちかえることができなかったのも、夜も来てくれたら良かった。又、産まれた赤ちゃんが不安で病院に行きたかったけど、ケガ人を見ると、自分のがまんしようと思った」(西/西 3/13 39/経産/自然)。「2月初め迄、水が出なかったため、バケツに水をくんで、3Fまで何回も運びました。それで、よくお腹がはりました。小学校で水をもらえると言っていましたが一入1ぱいまでで、乳児のいる人は、哺乳ビンも洗えなかったのではないのでしょうか。母乳のまったく出ない人は、どうしていたのでしょうか。お店へ行っても、水は売っていなかったのも、お風呂にためた水を、わかして、飲んでいました。子供が産まれる前で、本当によかったと思っています」(伊丹/伊丹 2/19 39/経産/自然)。 火事などの万一に備えて、風呂の水はわかしなおすまでは抜かすおくこと、という昔の人の智慧は核家族時代のいま、忘れ去られたというより言い伝えられていない家庭の方がずっと多いのではない

でしょうか。

「テレビetc で飲めないわき水等でミルクをつくらないといけな母親を見て人事とは思えなかった」(明石/明石 2/18 40/初産/帝切)。

「重いものを持ってない妊婦には、水をくみに行く事は大変困難でした。又、我が家のように高層住宅に住んでいると、エレベーターの動かない間は、下へ降りるのに大変な恐怖を覚えました」(西宮/西宮 3/27 40/経産/自然)。「トイレの水くみはマンションだったので、エレベーターが使えず不便だった」(長田/須磨 2/23 39/経産/自然)。「今回の地震による直接の被害はなかったが水道が2〜3週間使えなくなったために水の確保に追われた。飲料水はまでも風呂、洗濯、食器洗いに大量の水を使うので日々の水くみは大変であった。妊産婦といえども非常事態では重いものをもつなど無理をしがちなものである。トイレを流すなど大変なので水を制限してむくみがでた。その後気をつけたのでことなきをえたが、共同生活の場ではそうもいかずもっと悪化していたかもしれない」(西/明石 3/12 40/経産/自然)。「水が大事だと思います。私は出産前だったので赤ちゃんのお風呂とかミルクの水などが必要なかったのよかったですそれでも地震の当日は赤ちゃんの動きが活発になり夜には陣痛かと思ったほどお腹が痛くなり、私自身気が張っていたので幸い次の日にお風呂に入れて気分が落ちつきました。水の確保

が大切だと思います。あと電気ですね。とりあえず水と電気があれば少しはしのげると思います」(北/北 2/14 40/初産/鉗子)。「一番苦労したのは水運びでした。あの重さは妊婦にとって早、流産しそうでした」(灘/芦屋 4/1 40/経産/自然)。「私自身は幸いなことに親戚の家でお世話になったので実体験ではないのですが、産後入院した時に、流産で入院されている方が、断水のため給水所へいかなければならなくて、体の調子が悪くなって切迫流産したとおっしゃってました」(尼崎/北 2/3 39/初産/自然)。「今回の地震で、主人の仕事が自衛官ということもあって一人で水くみをしなければいけませんでした。おなか大きい上に二人の子供、そしてまだ7カ月というのに子宮口が2cmくらい開いているし、しかしせめて週1回はお風呂に入りたい。でも水はトイレや飲み水にきえお風呂の水はほとんど増えない。第2子を7カ月で早産し亡くしているだけに苦しい時期でした。近くのお風呂のある施設を貸して欲しい。ぜひお願いします」(伊丹/川西 4/7 38/経産/自然)。「とにかく大きなおなかですので、ご近所の協力がなくなるとなにもできないので、ご近所づき合いのない妊婦さんはたいへんです。なにより今回は、水道がとまったので重たい水を運ぶのがたいへんだと思いました」(西/西 3/11 39/経産/自然)。「何でも用事をたのめるようなボランティアの方がいてくれたらいいなと思いまし

た。当時33週でしたが大きなおなかで水くみや買い出しなど、健康でしたがたいへんでした。つわりのひどい方や安静が必要な妊婦さんも助かると思います」(灘/灘 2/6 36/初産/自然)。「今回の震災で見も知らぬ方が水くみを手伝い、運んで下さったり、色々な人にお気づかい頂きました。少しばかりの気くばりがとても大切だとしみじみ感じました」(西宮/三木 3/29 39/経産/自然)。

水の供給が断たれたのは医療機関も同じです。「普段は過剰なほどに衛生的に過ごす出産直前後が不衛生とまではいかなくてもおおざっぱになってしまい(特に水が使えないと)不安を感じます。新生児をきれいにしてやれないのがかわいそうで」(西宮/西宮 1/22 40/経産/自然)。「病院が水の確保を充分にしてほしい。尿検査ができなかった為」(尼崎/尼崎 2/8 40/初産/自然)。「私が地震直後に出産したので水もないのによくやっていただいたと感謝しております。一言いえば水がほしいたびに看護婦さんに頼んでいたのが部屋に容器に入った水があればよかったと思います」(伊丹/尼崎 1/19 39/初産/吸引)。「此度の震災で水の確保が非常に困難な事もあり、出産後、退院まで(前日まで)入浴する事はもちろん、シャワーを浴びる事ができず、洗髪もできず不便を感じた。水の確保を日頃から対策として考えて欲しい。只、そんな中、忙しい合間に看護婦の方々がタオルを熱

いお湯でしばって体をふく様にと何度かして頂いた事がとても嬉しく感謝している」(西/西 2/3 41/初産/自然)。「水がでなくて不便だったのですがトイレのあとに〇〇病院ではウェットティッシュをかんごふさんがくださいました。そういうこまかな心くばりが妊産婦のときほっとした」(灘/灘 3/19 38/初産/自然)。ある産婦はただひとつ、「とにかく水がほしかった」(伊丹/北 3/23 38/経産/自然)。

水の得られない苦痛を味わったのは、一般市民や病院だけではなくありません。本書に直接の関係はないことですが、地震に続いて百数十箇所から発生した火災に向かって放水しようとした消防士たちは、ホースから水が出ないことに気づいて愕然としました。目の前では家の下敷きになったまま救い出せない人の悲鳴が聞こえ、ほどなくわが家とともに焼死の危機が迫る……殺気だった家族たちから浴びせられる怒声罵声、結果的には消火のプロとしての役目が果たせなかったという苦い重荷が心の奥底に刻み込まれて精神的に傷ついた消防士もいたそうです(*)。

8. 風呂

このアンケートによると、前項に記された水不足がきつくてたえた一つは入浴できないこと

でした。「一番つらかったのは、お風呂に入らなかった事で足が冷えて、どうしようもなかった」(西宮/川西 2/19 39/経産/自然)。「入浴ができなかったことで、体が冷えて、妊しん後期だったこともあり、かいだんを上げるのに足があがらなくなる、車からおりられないなどしんどかった。そして、出産前にカゼをこじらせてしまい、出産が重くなった」(長田/須磨 3/14 41/初産/自然)。

地震でこわれた公衆浴場のうち何軒かが応急修理され、待ちかねたように住民が押し寄せました。「寒い冬だったので特に思ったかもしれませんが体が冷えてよくお腹が張った様に思いました。ようやく銭湯が開いたと思っても1時間～2時間待ちでつらかったです」(伊丹/宝塚 3/7 37/初産/吸引)。「地震によりライフラインがストップしガスが2カ月も止まりました。お風呂やさんも長い行列ができとても並ぶ気にもなれず有馬の方にまでお風呂にはいりに行きました。妊娠8カ月から産むまで自宅の風呂はつかえませんでした。風呂にはいれなかったことが一番つらかったです」(灘/灘 3/15 40/経産/自然)。「入浴できなくて、銭湯にいても妊産婦でも並ばなくてはいけなくて、2時間たちっぱなしで並んでいたためおながはって2、3回入浴できなくて帰ってきた。プール施設のシャワーなどが使えたらいいのと思いました」(川西/川西 4/7 38/経産/帝切)。「地震後、ガ

(*) 神戸市消防局：雪。47:3 1995年2月。

スも水もまだ復旧していないときに一番困った事が、私はお風呂に何日か入浴できず、お風呂屋さんが開いているところをうわさで聞いて行くと2・3時間待ちでものすごくしんどい思いをしたので、災害のときは妊産婦だけが入れるお風呂を産婦人科又は病院などにすぐに入れるようしていただきたく思いました」(中央/灘 2/24 39/経産/吸引)。「やはり、1番苦勞したのが、お風呂でした。ガスの復旧が特に遅く、検診の時は、カセットコンロや熱帯魚用のヒーターでお湯を沸かして、必死に入浴しました。妊婦が特別とは思いませんでしたが、長い行列のできた銭湯に並ぶわけにもゆかず、当時、お風呂を1番希望しました」(垂水/垂水 3/20 39/初産/吸引)。

「お風呂屋さんで、他の人と一緒に入浴するのにお腹が大きいので、とても抵抗がある。産婦人科のお風呂を使わせてほしい」(東灘/姫路市 2/8 42/初産/自然)。「風呂場の確保……妊娠中なのでできるだけ他人のかたと一緒に風呂にはいりたくない。特に産後1カ月は……」(垂水/西 2/9 39/経産/自然)。「お風呂に入れないので、病院などで消毒剤のようなものを配布して欲しかった」(東灘/加古川市 3/15 40/初産/吸引)。

もしあなたが妊婦だったら、冷え込みの強い季節にお風呂屋さんの前で長時間待ちの行列に加わるか、それとも自宅や避難所にこもって入

浴できない不快感に耐えるか、どちらをお選びになるでしょうか。「阪神大震災がおこったとき9カ月に入っていました。初産というだけでも不安だったのに、いつもどきどきしていました。水がでるようになるまで1カ月半かかりガスは2カ月以上たってもまだということで大きなお腹をかかえおふろにいきました。毎日というわけにもいかなかったので、患部がただれつらなかったです。妊産婦は特に清潔にしないといけないと思います」(宝塚/西宮 3/2 32/初産/自然)。「ガスが長く(2月末まで)使用できずおふろに困った。大きなおなかで混んでいるおふろやへ行くのも大変で数日に1回となり、ちつ炎となった」(宝塚/宝塚 3/2 38/経産/帝切)。「お風呂に入れないので、妊婦だった私は震災直後8カ月だったのですが、やはり清潔に欠けてしまってカンジタ病になりかけ赤ちゃんに影響しないか心配しました」(兵庫/須磨 3/15 39/初産/自然)。「衛生面で、お風呂には、毎日、入りたかったけれど、週に2回入れればいい方だった。その為か、“ち”になりかけて、あわてて、ウォッシュレットを使った。又、いろいろな所へ、お風呂に入りに行ったけれど、それだけでとても疲れた。地震のときは、冬だったので、まだ、ましだったけれど、お風呂にだけは、妊娠中は、特に毎日入りたいと思った」(東灘/東灘 3/19 39/初産/帝切)。「冬に妊娠中だとガスを止められるのは本当につらいものでした。お

りものなどで不潔になるうえ冷えるので優先的に
お風呂へ入れるとか、ムリが多いと思います
が入浴サービスが受けられるとありがたかった
です」(川西/川西 3/10 40/経産/自然)。

せめて赤ちゃんだけでも……。「水の確保を
第一に考えていただきたい。新生児が、毎日、
お風呂に入れないのは、可愛想です」(長田/長
田 1/25 40/初産/吸引)。「新生児が入浴でき
ずに、お尻がただれていたのをTVでみました。
どの子も、清潔にしてやりたい!!」(明石/明石
2/12 39/経産/自然)。「ガスが実家でも止まっ
てしまって湯がほしかったのでみんなにきくと
赤ちゃんをポットのおゆでふいてあげていたで
す」(川西/川西 2/20 40/経産/自然)。

水やガスが出ないため入浴がままならないの
は医療機関でも同じでした。「地震で、3週間
ガスが止まり、お風呂に入れなかったのが、と
てもつらかったです。お腹が大きいので、銭湯
にも行く気にもなれず、産婦人科などで、シャ
ワーだけでも使わせていただければ、ありがた
かったな、と思います。私が行っていた産婦人
科では、ガスも水道も、自宅より復旧が遅った
ので、ダメでしたが…」(宝塚/宝塚 2/18 40
/経産/自然)。「水がほとんどなく(地震の2日
後に出産した)産湯にも入れてやれなかったの
でとてもかわいそうだった。入院中に沐浴が出
来ず退院後沐浴に苦労した。普段はいろいろな
行き届いたサービスのある病院も災害の後は大

変だと思う」(西宮/西宮1/19 39/初産/自然)。

「妊娠中の清潔にしておかないといけないとき
に断水などのために清潔にしにくい状況にあっ
たことが一番つらかった。産婦人科の病院でも
同じであるとおもいますが妊産婦等に優先に給
水があればうれしいと思う」(垂水/明石 3/10
39/初産/吸引)。これらに比べて、被災度の軽い
地域では、「私の場合は他の医院から1月19日
になり〇〇病院で出産いたしましたので、病院
についてすぐ暖かいということに感激し、お湯
がでるということにびっくりしました」(西/西
1/19 38/経産/自然)という恵まれた病院もあっ
たようです。

9. モノとカネ

人間が生きてゆくために水は絶対不可欠なも
のですが、むろん水だけで長時間はもちたえ
られません。

半世紀あまり前の戦争末期には、国内の百を
超える都・市・町が何度も空襲を受けて焼け野原
となり、これらの被災地では、いかに自分のま
ちを立て直すかに懸命で、ヨソのまちへの救援
など考えるゆとりはありませんでした。このた
びの大震災では、日本中の車が集まったかと思
われるほど、さまざまな地名のナンバープレ
ートをつけた車両が集まり、被災地を救援するた
めの人・物資・義援金など多大のご援助を賜った

ことは終生忘れられない感動であり、ただ感謝のほかはありません。海外からも50を超える国や地域から支援が寄せられたこととあわせ、ここにあらためて、心から厚く御礼申しあげます。とはいえ、戦争にせよ災害にせよ、破壊のひどい地域ほど生活資材が急速になくなるうえ救援物資も届きにくいという状況は、この大震災でも例外ではありませんでした。

「自宅マンション前の〇〇小学校が避難所になっており食べ物の配給のときの放送が『小さなおちゃんと老人のかた優先です』というっており妊婦はふくまれていないのが少し不思議だった。逆瀬川のスーパーの食品売場が1時から開店する情報があったが人がさっとうして8カ月の私はおされたりしたらとおもいこわくて買いだしにもいけずひたすら空腹だった」（宝塚/西宮 4/5 28/初産/自然）。「救援物資(特に食糧)を配る際、長時間立ったまま、寒い中ならなかったので、できれば体の弱い人や妊婦は、優先させてほしい」（東灘/東灘 3/28 38/初産/自然）。「大きなお腹で買い物に行っても食べ物が不足していたり、スーパーなどがあいてなかったりで、この先食べていけるのか不安でした。あっても他のお客とおしあいへしあいでお腹をおされたらどうしようかなどとても気になりました。私は隣の奥さんがかわりにこみあう場所のものはかってきてくれましたが私一人だったらかえなかっただろうなと思います」（尼崎/尼

崎 3/23 41/初産/自然）。「水もでないから、水すらのめないし、ガスもレンジも使えないので、せっかくいままでガンバって、体のかんりをしてきたのに、スーパーなどで、ジュースや、おかし、などをかってたべるしかなかったから、むくんで病院で注意された」（尼崎/尼崎 3/30 40/初産/自然）。「食料がなく困った。カルシウム…などを子どもの為にと考えて食事をしていたのに全く食べるものがなくあっても1回の食事におにぎり1コとかで自分もおなかがすくし赤ちゃんに大丈夫か心配だった」（須磨/北 2/17 39/初産/自然）。「地震の時はすでに病院に入院しており地震時より食事がバナナ1本とかおにぎり、パンと、2人分の食事をとらないといけないのにもかかわらずこれだけで食事だけは困りました。もうちょっと援助してもらいたかった」（宝塚/宝塚 1/24 38/経産/帝切）。

「今回の場合、車の無い者、遠方に知人のいない者は、避難所という何も無い所に居るしかなかった。配給の重い荷物、全くない食料（おにぎり1コの日が2日もあった）での空腹、誰も助けてもらえないのですべて自分でやった。やはり、病人と同じようにどこかに別に収容する所を作っておくべきだ。病人ではないが、健康な人とも違う。同じように行動できない。あまりにもつらい日々でしたので」（灘/中央 2/25 36/経産/自然）。「食物アレルギーの子供の食事がすごく大変した。アレルギーの会などより

おやつは確保できたのですが、おかずや、調味料など市外まで行きましたがあまりなく、アレルギーがひどくなり大変でした」(灘/須磨 3/28 36/経産/自然)。「妊娠8カ月、むくみと体重増加で腰痛のひどいとき、電気がなくて動きがとれず1日12時間も横になる日が続きますます腰痛が悪化した。さらに食事が菓子パンや弁当等、砂糖、塩分の多いものになってしまい体重は増加した。2週間してカセットコンロの配布があり自炊ができるようになってありがたかった。避難所等では減塩のものなどが必要ではないかと思う」(須磨/須磨 3/28 39/経産/鉗子)。

水や母乳・ミルク以外にも、赤ちゃんに必要なものがありますね……そうです。「紙おむつがとても必要だと思います。友人は長田に住んでいて、全壊してしまい子供(当時3カ月)をつれて学校で生活してたんですが、おむつがなく、布だと、洗えないし、大変なので紙おむつをしてましたがたりなくて、紙おむつを洗って、かわかして使っていたそうです」(垂水/神崎郡 2/22 39/初産/自然)。「私の入院していた〇〇病院では本当によくしていただきました。けれどもかえってけがをされた人達がろうか、私と子供が個室で何だか申し訳ないきがしました。はじめての出産で何に関しても心配だったので肌着1枚にタオルの子供が大丈夫か気になった。冬だったので、さむかったので、母と交代で子供を抱いてぬくめていました。やはり受け入れ

る側も毛布の予備や子供の肌着だけでなくお古でもいいので着るものなど用意してあげたらと思う。同じ入院していて全壊で身ひとつでいらした妊婦さんに、私も寝間着や赤ちゃんのふくをあげました。その人は何もないことをすごく不安がっていてずっと看護婦さんに言っていたので、何だかかわいそうで」(東灘/東灘 1/18 37/初産/自然)。「私が困ったことは、7カ月(H6 11月末)まで仕事をしており、産休に入ったら出産用品をそろえようと考えたいところ、1月17日をむかえて、神戸は物資すら少なく、実家は全壊で両親は避難所生活、不自由以上の困難さを感じて、出産をむかえました」(須磨/須磨 2/12 34/初産/自然)。

「清潔な水、沸騰させるための簡易機具、清浄綿(大きめのもの)赤ちゃんの顔がふけるぐらい・大判のバスタオル(毛布ではかぶれる人もいるので、おくるみにもなる)。出来れば一般の病人、子供を含む健康な避難者、乳児・妊産婦をわける」(東灘/北 2/15 38/初産/自然)。「やはり災害というものは忘れた頃にやって来るものですし、一番、皆のわかりやすい市・区役所などには、毛布や、非常食、水、オムツ、ミルクなど、この震災で大変必要だった物などがある程度そろえておくの良いと思う」(明石/西 1/29 39/初産/帝切)。「あの様な大地震等に遭った場合、市や県で十分な保護体制があるのは、望ましいけれど、もっと身近な単位で物

資(ミルクやおむつ)をもらえたり、妊産婦が手当てをすぐ受けられる、そういう地域の地域の人が即利用出来る事が大切だと思います」(明石/明石 4/3 38/初産/自然)。「避難所には赤ちゃんのためのミルク、紙おむつなど充分に確保されていることが必要だとも思います。母親は自分よりまず赤ちゃんのことを大切に思うはずです。赤ちゃんがおなかをすかしていたりして泣いているのにどうもしてあげれないとするとそれは母親にとってもとてもつらいことですから」(伊丹/伊丹 3/3 38/経産/自然)。「今回の地震でミルクや紙おむつの確保が大きな問題となったようなので病院はある程度の予備をしていつでも対応できるようにしてほしいです。またそれを妊婦にもPRすべきだと思います。普段の妊婦の方にいざというときの対応の方法や最低限そろえておいたほうがよいものなどアドバイスするのも大切かと思います」(灘/灘 4/3 40/初産/吸引)。「皆さんがケガをして避難所に行くと思いますので、避難所にある程度の薬、器具を説明書等もそえて常備するといいと思いました；薬の使い方、急な手あての仕方など」(東灘/姫路市 2/13 40/初産/自然)。「私の場合は地震のとき病院(入院中)にいたわけですが看護婦さんが一生懸命お世話してくれたおかげで何もせずに過ごすことができ有難く思っております。…がそのとき暖房が止まり産後だったにもかかわらずかぜをひきかなりしんどいおもいを

しました。他の人に比べればなんでもありませんがそんなときのためにうすい毛布一枚しかないというのは…と感じております」(灘/中央 1/19 40/経産/自然)。「震災後、産院に検診の為訪れた時、“赤ちゃんの水”、紙おむつ等自由に持ち帰れる様、用意されていたので出産後の検診でいろいろただけて助かった」(須磨/須磨 2/4 41/初産/自然)。「私は妊娠中でしたが、友人などは子供のミルクが買えないといっていました。私が通っていた病院には粉ミルクや紙おむつがたくさん置いてあり持ち帰れるようになっていましたがよかったと思いました」(須磨/須磨 4/3 39/初産/自然)。「地震後、給水車が来てくれましたが、水を家まで運ぶのが大変でした。援助物資なども体育館や市役所まで取りにいくことが出来ず大変でした。せめて、紙おしめやミルクなど赤ちゃんに関係するものは病院でもらえたらと思いました」(西宮/尼崎 4/5 38/経産/帝切)。「1カ月検診の時〇〇先生に粉ミルクを2缶いただきました。たすかりました。ありがとうございました」(東灘/灘 1/17 40/初産/自然)。「地震後しばらく薬局の店頭からごそと紙おむつ、離乳食がきえたと聞きました。私の場合はまだ生まれてなかったのでさほどあわてずにすみましたが赤ちゃんを抱えたお母さんにとって“産婦人科に行けばなんとかなる”と希望がもてるように新生児だけでなくもうすこし幅広く備蓄しておいて診察券

があれば売ってもらえるようなシステムがあればいいと思います」(宝塚/宝塚 1/24 37/経産/自然)。

「妊娠・出産の生理と経理」の章に記したとおり、出産育児手当金などの補助があるとはいえ、出産は経済面ではかなりの負担です。これよりさらにケタ数の違う大きな負担が地震による家屋の損壊や失業で加わったらどうなるか、あなたのご家庭の場合をちょっと頭に描いてみて、それから以下を読んでほしいと思います。

「混乱時妊婦の身で銀行へ行けない。又は行く手段がない等考えられる場合には診療費を後払いにできるようにとりはからって頂きたいと思います。私自身水道がとまりスーパーでものが買えずとても銀行へいくどころではありませんでした。たまたま手持のお金があったので困りませんでしたが困った方もいらっしゃるのではないかと思います」(須磨/北 3/20 39/経産/自然)。「医療は、べつに言うことはないんですが、援助なら食べ物や水それからお金も援助してもらいたかった。それは銀行に入れてる人は、いいんだけど、中には家にお金を忘れたまま避難をして、焼けてしまった人、どろぼうに入られた人いろいろいたのでお産のお金がなくてすごくこまった」(兵庫/兵庫 3/6 37/経産/帝切)。「用意してあった出産費用が全部ひっこし等ででいてしまい頭のなかはどうしようという気持ちでいっぱいだったので費用の支

払はもう少しあとにしてほしかったです。金銭的なことと産後いまだおちつかずにフワフワ、ソワソワしているので心のケアもしてほしかった」(西宮/西宮 3/24 39/経産/自然)。「今回の震災で、主人の仕事を失い、就職もなかなかできず、かなりの預金を持ち出して生活していたため、出産費用がでなくなり、市の福祉事務所にも何度も足を運んだが、震災後の出産については特別なものも、なにもなく、震災前からの出産費用等の援助も震災前の市民税等からのものを見てのしん査で、何もしてもらえず、借金して出産した。交通費を使い、時間を使い、イライラして、何もしてもらえませんでした。もう少し、何かしてほしかった」(伊丹/伊丹 3/20 37/経産/自然)。「家がなくなった人だけおむつやミルクをもらっている。主人の会社がつぶれかかって給料が 1/3 になり、経済的にかなり苦しくなった。妊産婦平等に扱ってほしい」(北/北 3/22 34/初産/帝切)。「全半壊だと医療費免除などがありましたが、一部損壊だと、それが全くなかったのがちょっとしんどかったです…。一部損壊といっても、屋根が落ちるし、車はへこむし…で経済的負担が大きかったのです。検診の費用の免除などがあるとたすかったナと思います」(北/北 4/8 40/経産/自然)。「半壊・全壊には入院費の援助があると聞いていたけど、退院の時、何もしてくれなかったのも、いまだに疑問が残っています」(兵庫/北 2/26

40/初産/自然)。「地震になったとき身内の家が半壊して私の家に集まってたくさんお金がいました。出産費用が35万円前金だったのでとてもこまりました。地震後だったので……市からの援助ありませんでした。少しでもそういうときこそ支払うお金は出産した後にしてほしいかったです。私の家は被害なしでも身内がきたのでけっこうお金もかかりました」(伊丹/伊丹 4/11 41/経産/自然)。「地震後、胎児が気になったので親せきの近くの産婦人科に行きましたが、その医院でお産をしないとわかったらあまり真剣に診察をしてもらえず、診察費も高かった。こういう非常時の場合は、お金をあまり持っていない方もいらっしゃるので無料で診察をうけ入れるシステムを考えて頂きたいと思います」(東灘/東灘 3/10 38/初産/自然)。「一瞬にして家やすべてのものを失った時、何か、証明書みたいなものもなくても、妊娠してることがわかれば検診料の半分为免除してくれたりしてほしい」(西宮/西宮 3/13 39/初産/帝切)。「母子手帳や、保険証などをなくした場合でも、無料ですぐ診察できたらありがたいです」(尼崎/尼崎 4/7 40/初産/吸引)。

「転院先の病院は、自分でTVを見て探さなければならなかった。先生の方から転院して下さいと言われたのに、転院証明書を頂くのに証明書代をとられた」(西宮/尼崎 1/28 40/経産/自然)。「私は関係ないのですがある病院に入

院していた人は震災後水の出ないためもく浴や食事などで満足な処置もしてくれず7日間のところを5日間で家に帰されたのに入院費は非常に高かったと不満に思っている人がいました。水不足、物不足のときは仕方ないんですがせめて金銭面でのサービスをしてもらえたらと思います」(兵庫/伊丹 3/3 40/初産/自然)。「親類の家に一時避難したので、地震前の病院、避難先での病院、出産した病院と、3つの医院にかからなければなりません。どこの病院でも、最初から何もかも検査しなければならなかった。血液検査など、とても費用がかかりました。検査書を見せても、どうして最初から受けなければならないのか不思議です」(西宮/西宮 3/12 39/初産/自然)。「避難先(大阪でした)の近くの産科でとりあえず検診を受けて今後どこで産めるのかなやんでましたところ、”ここでの診療に必要”とのことで今まで受けた血液検査を全部やり直しということになりました。問い合わせはあの混乱の中で難しいかなとも思いますが母子手帳に記録できるページ等があったらどうか、と考えました。いろいろ物入りなときでそれだけで3万以上かかり大変でした」(西宮/中央 4/6 40/初産/自然)。「今回のように、通院していた病院でみてもらえなくなることや、急に他院にまわされてしまうことがあるので、母子手帳にもっと詳細な情報を記入してほしいと思います。出産前だったので、何かあっ

たら母子手帳だけでもってにげだそう”と思った」(須磨/須磨 1/22 40/初産/自然)。「今回の大地震で出産を予定通院していた病院が機能不可になりこれまで受けてきた検査のデータや保険の効かない高額な検査結果の内容が全て無効というかだめになってしまった。データ内容などをオンライン化しせめて他府県の市民病院もしくは市の保健所でデータを保存し別の病院でまた改めて同じ検査を行わなければならないようなことにはしないで欲しい」(明石/明石 3/8 41/初産/自然)。「妊婦の検査は10割負担等のものもあり、負担額が大きいですが、”地震で他院を受診した際、すべて検査を再検査となったためつらかった”と同室妊婦さんが言われていました。病院の方も、たいへんだと思いますが、ネットワークシステムを使い、負担を最少限にしていだけたらうれしく思う。私は、2院を受診し、〇〇病院では〇〇医師により△△病院に問い合わせてもらえ再検査せずにすみ助かった」(中央/明石 3/14 39/初産/自然)。

被災者に対する医療援助措置としては、災害救助法により指定された10市10町(第1章参照)で家屋が全壊または半壊した住民を対象として、患者の一部負担金が免除されました。このような各種の援助措置の基本条件となった家屋の被害程度については、全壊[家屋の5割以上破壊]・半壊[2割～5割未満]・一部破損[2割未満]のいずれかに市や町が判定して”り災証明書”を

発行しましたが、おびただしい数の住居が一時に破壊されたため個々の家屋の破損程度を専門的に判定できる技術者の数が間に合わず、客観性に疑問のある”証明書”によって援助に”不公平”な差を生じたことが、被災者の不満を増大させました。また、震災による情報網の混乱や被災者がその日の生活に追われていたことなどもあって、この援助措置を知らなかった人がかなりあったのではないのでしょうか。そのうえこの医療援助措置も被雇用者を保険する健康保険など場合は地震の発生した1995年の5月末に、また、国民健康保険の場合は同年12月末までに打ち切られたので、本アンケートでは医療費の援助を求める声が数多く寄せられています。

10. 交 通 マ ヒ

地震と同時に線路が至る所で分断された電車は全く頼りにならず、電話も通じないのでお互いの安否も職場の状況もさっぱりつかめない。不安にかられた人びとが次々に自家用車をくりだした結果、道路は車で満杯になり、とても目的地に行けないと悟っても後戻りもできないような大混乱が起きました。大きな地震や火災のさいには自家用車の使用を自粛すべきだという”常識”など、車社会の現在では消し飛んでしまったのです。交通規制に出動した緊急車両もたちまち混乱の渦に巻き込まれて動きがとれな

くなりました。ある産婦は災害発生の初期にとくに必要な事項の一つを、「一般車道での緊急車両の優先道路確保」と指摘し、「実際に避難車が道をふさぎ、通行出来なかった救急車を何度も見た」(尼崎/伊丹 1/23 38/経産/自然)と追記しています。「地震のショックで陣痛が始まったという人を身近で聞きました。非常事態だったので仕方ないかもしれませんが救急車も来てくれずとても困ったと聞きました。産婦人科にかぎりませんが、そういう時こそ受け入れ態勢をしっかりとしておいて頂きたいなあと感じました」(明石/北 4/9 40/初産/鉗子)。

「今回の地震でいちばんこまったのは、交通機関が止まってしまったことです。主人は、仕事がいそがしくなり、車で送ってもらうことが出来ず、私は、主人の実家(西明石)に避難していたので、とても病院まで行くことが出来ず、2週間おきの検診だったのですが、結局、2カ月ほど、行けなくなりました」(須磨/須磨 4/14 39/初産/自然)。「妊婦がいつでも病院に行ける状態でいてほしいと思う。私は1月17日が妊婦検診の当日で行きたくても行けず結局7日後に診察に行きましたが病院まで4時間かかりました」(垂水/中央 4/7 38/初産/自然)。「1月17日以降、何度も、出血しそのたびに来院したいと思うのですが、車が混雑していて平常10分が2時間となるとどうしても行けなくて…とても困りました」(宝塚/宝塚 4/4 38/経産/

自然)。「2・3日後テレビにより妊婦のみでいただける病院が紹介されましたが交通もマヒしており結局家でじっとするだけでした」(垂水/須磨 2/8 39/-/自然)。「災害4日後の出産だったのでよかったがもしその日にさんけずき交通機関通信がマヒしていて身動きが出来ない場合どうしたらいいかわからない」(宝塚/川西 1/21 41/経産/帝切)。「出産予定日が迫っていたため、入院の際に交通手段のことでとても不安が大きくて困りました。電話が通じないため、タクシーが呼べない、道が混んでいる、主人が留守の時なら自分で車を運転していくしかなく、上の子をつれてどうしようかetc. 不安がいっぱいでした。何か対策ができれば、助かる人もいるでしょう」(明石/明石 1/31 39/経産/自然)。

淡路島に住む妊産婦たち、「今回の地震で思ったことは病院が遠いこと(車で1時間片道かかる)産婦人科が近くにない。もしも道路が不通になっていたらと思うと少しゾットした」(津名/洲本 3/21 41/初産/自然)。「今回の地震で産院が無事なことはすぐ確認できましたが、余震もあったので、交通路が心配されました。津名から洲本は国道だけが頼りですので、どこの場合もそうかとは思いますが、一方がだめなときのもう一方の交通手段というのが欲しいと思いました」(津名/津名 1/29 38/経産/自然)。

「今回入院時交通渋滞にて(普通30分でいけ

るところが1時間30分)子宮口全開での入院となったため救急車等の緊急自動車が活用できるようにならないものだろうか?」(垂水/須磨 1/24 38/経産/自然)。「私の場合は8か月に入った所の地震だったので出産できる所があるのか、交通できる道があるのかわからなくて不安でした。自宅で出産するにも水もガスもなく(どちらも3/10に出ました)どうしようと思っていました。幸い妊検を受けていた病院から出産できるから安心してと電話をいただきほっとしました。問題は交通面です。ものすごい渋滞のなか病人、産婦ののる車は救急あつかいにしてもらいたいです」(東灘/中央 3/18 37/経産/自然)。「地震当日に、車で移動しましたが、普段1時間で行ける所に1日かかりました(実家にはとても行けませんでした)。病气やけがをした人はもっと困ったと思います。非常時には病人をのせた車は優遇して欲しいと思います」(東灘/氷上郡 1/21 38/経産/自然)。「1月17日が予定日だったので地震の日が検診日でしたが、診察できる状態でなく、なにかあれば(産気づいたら)来院するようと言われ、そのまま帰り、少々不安でした。1月19日の検診時、大阪などで、知り合いがいればそちらでのお産もすすめられましたが、正月あけから子宮口も半分ひらいている状態、交通の便(車)も渋滞でもし車の中で…と思うと動けず、病院の機能が少しでもどってからの出産がいいと思ったのでお腹が

はると横になったりしました。病院の車、もしくは、公的な車などで安全に(安心して産める病院)送ってもらえれば…と思いました」(西宮/西宮 1/21 40/経産/自然)。このように、交通渋滞の中で医療機関へ行くため妊婦を優先的に扱ってほしいという要望が出ていますが、この問題も含めて、優先車両のルールは平素から十分に検討しておかないと災害時には収拾がつかなくなります。ひと目でわかる救急車や消防車以外で、援助物資輸送や復旧工事に当たる車のフロントガラスには緊急車両であることを示すラベルが貼られましたが、これが何種類も発行され(公安委員会発行のものだけでも4種類)、さらには複写や偽造されたラベルが横行するなど、混乱や無秩序はかなりのものでした。交通規制する側としては、個別の事情などに配慮するゆとりはありませんから、至る所で“通せ”、“通さぬ”、の押し問答が繰り返されたことと思います。「地震で家が傾き、2日間、車の中ですごしました。特に、おなかのひどい痛みはなかったのですが、よく張ってきたので(胎動もあまり感じなくなった)、伊丹の実家に帰ることにしたのですが、電柱がたおれ、どの道もふさがれたので駐車場から出られず、実家から、むかえに来てもらうことにしました。しかし、国道2号線など、妊婦がいるからと言っても、なかなか通してくれず、けんかごしで来てくれたようです。もう少し、妊婦に対して、配りよ

をしてくれればと思いました」(東灘/尼崎 3/5 39/経産/自然)。「今回は初めての非常時であった事もあり、しかたのない事もあるでしょうが、急な時でも43号線に規制時間があった為タクシーを呼んでもきてくれないし、一般車はおれないし、大変だった。混雑するのは、わかるけれど、子供の一カ月検診もタクシーが、43号線より南の方は行けないといわれ、雨の中、一人子供と傘をさして、荷物を持って電車での検診はつらかった。もう少し考えて欲しかった」(西宮/西宮 3/20 36/経産/帝切)。「国道2号線沿いにある病院に行きたいのに震災の緊急車両だけといって自家用車が通れず困りました。最後に119にケンカごしで電話してたのみにたのみこんで連れて行ってもらい出産しました。妊婦は急病人ではない扱いの様だったので今後はもっといい対応を望みます」(西宮/西宮 1/21 37/経産/自然)。「出来るなら交通規制をして、災害のない所へ避難する、させるのが一番だと思う。母子手帳を許可証にして」(長田/須磨 3/7 39/経産/自然)。なお、妊産婦を優先してほしいという要望は、交通の問題に限らず、さまざまな項目でたくさんありました。「医師や看護婦、さらに妊産婦自身も、”妊産婦は病人やケガ人ではない”という考えが心のかたすみにあるのではないかと思います。そういう考えからくる遠慮や疎外感をやわらげてくれる医療を望みます」(須磨/須磨 1/17 40/経産/自然)。これ

らに対し少数ながら、「妊婦といっても普通の生活をしている人がほとんどだと思うので、特別にこうしてほしいということはない。皆、平等でいいのでは…」(北/北 2/8 39/経産/自然)という意見もありました。

なお、いままでに記されたライフラインの被害と復旧までの期間は、地域によって大差がありますが、おおまかには表3(*)のとおりです。また、電車の路線で最後に復旧したのは、六甲ライナー線で8月23日に開通(地震後7か月)、駅の再開が最も遅れたのは神戸高速鉄道線の大開駅で、震災からほぼ1年後の96年1月8日にやっと使えるようになりました。

表3 ライフラインの被害と復旧

	被害	仮復旧日(地震後)
電気	100万世帯停電	1月23日(1週間)
電話	48万回線不通	1月31日(2週間)
水道	100万世帯断水	2月28日(6週間)
ガス	85万世帯停止	4月11日(12週間)

11. 歩 　　く

大量輸送能力のある電車が止まり、代替バスに乗るには長蛇の列、やっと乗れても乗用車と

(*) 建築行政協会兵庫県支部：阪神・淡路大震災と建築行政等の記録

同様、渋滞のためなかなか進めないという状況の中で、最も機動力を発揮したのは四輪車を横目に狭い空間をすり抜けて行くバイクでした。坂道の多い神戸では平素あまり使われない自転車もこの時は脚光を浴びました。これらの車両をあてにしない、あてにできない人たちは軽装にリュックサック、当時“震災ルック”と呼ばれていたでたちで、ひたすら歩き続けました。実際に、車より歩く方が早く目的地へ着けたのです。ふだんから山歩きやハイキングの好きな人たちが多い土地柄もあって、とくに幹線道路では“歩け歩け大会”のような光景が連日展開され、その中には妊婦もまじっていました。「10ヵ月にはいっていましたが検診へいくのに1時間ほど歩いて病院へ行きました。陣痛がはじまったらどうやって病院へ行こうかと心配しました」(中央/中央 2/5 37/経産/自然)。「テレビでみたのですが、電車が通っていない線路を8~9ヵ月位の妊婦さんが神戸→西宮北口まで歩いている状況がありました。ガス、水道の状況で大阪の知り合いの家にいかれる途中だったのですがインタビューで“お腹がはってるんで休憩中です”と言われていました。私自身7ヵ月だったのでどれだけ大変だったことかと思います。あのなかでどれだけチェックができるかと思いますが、車、ヘリコプター等で移動することはできないのかと思いました」(尼崎/尼崎 3/30 39/初産/自然)。「1月19日に六甲アイランド

から西宮北口まで歩いた。34週だった。非常時だったので援助は何も期待しなかった。安全な避難方法など提供してもらえたら良かったのではと今にしてみれば思う」(東灘/東灘 3/4 40/経産/自然)。神戸市東灘区の沖を埋め立てた六甲アイランドの中心から西宮北口までの距離を地図で調べると12 km あります。阪急電車が西宮北口駅以西は不通となったため、神戸や芦屋の市民には西宮北口が大阪方面への出口でした。「今回震災後病院の状況を聞いて出産が不可能であれば紹介状をかいてもらおうと思っていたが簡単に“だめです”、“出産はできません”、“紹介状もむりです”と断わられてしまったので、なんのための大病院かと悲しくなった。子宮筋腫があるので前回も胎盤機能不全であったので、大きな病院で出産を予定していたのと思った。せめて病院側は出来る限り患者に対して紹介状を書くなりしかるべき対応をして欲しかった。また自宅(徳井)から尼崎(潮江)まで8ヵ月の時に歩かなければならなかったのも車でも使えたら……」(灘/尼崎 4/4 39/経産/自然)。徳井から潮江までは20 kmもあります。「地震後、どうしても外出しなければならなかった時(妊娠7ヵ月でしたが)、歩いてる途中にお腹が張って歩行困難になりました。そんな時、車イスでもあれば…と、とても無理なことを考えました。でも、そんな風に思う妊婦さんは地震後とても多かったのでは…。(でも今でも道がガタガタ

でベビーカーも動かす事が大変だからとてもムリですね」(西宮/西宮 3/30 36/初産/帝切)。

こんな“歩き”もありました。「トイレに困った(水が流れなかったり、こわれたりしたため)。トイレをさがして歩いたため、おなかが張ってくる。座る所もなく立ちっぱなしでしんどかった。トイレや、やすめる所などがほしい」(伊丹/加古川市 2/14 38/初産/自然)。自宅の水洗便所が使えなくなり、平素なら当たりまえのように使う駅や飲食店の便所には申し合わせたように“トイレの使用はできません”の貼り紙。“入れた分だけ出さねばならない”という自明の、しかし平素は気にもとめなかった厳しい自然の摂理に追いつめられた被災地の人びとの中には、各地から、時として新幹線でも数時間かかる遠隔の地から緊急輸送されてきた移動式便所を町角に見つけてホツとし、それに書かれた地名を眺めて、なんと気の利く都市だと感謝感激した体験を思い出す人も少なくないのではないでしょう。

12. 妊産婦の不安

「もし、けがなどをしていた場合はもちろん医療が必要で物資援助もありがたいと思います。が精神的なものがすごくおおきいと思います。何かあっても大丈夫という安心感、そこからいいお産ができると思います」(灘/灘 3/16 38/

経産/自然)。地震はこの安心感を大きくゆさぶりました。「地震後、余震が続いて、こわさで何度も目が覚めました。夜がすごくこわくてたまりませんでした」(西/西 2/1 42/初産/吸引)。「今回の地震はちょうど10カ月に入ってすぐのことでした。通院していた〇〇病院がダメになりバスも電車もストップ。近くの産科医院は断水のためお断り。ここで陣痛がきたらこのままここで産むのか…とそれだけが心配でした。幸い家には被害がありませんでした(家の中には被害ありましたが…)」(西/西 2/22 41/初産/自然)。「大震災のあった日、主人が会社へ出かけた後、余震が続くなか今度地震がきたら1才の子供とお腹の子を私が守らなければという気持ちと不安で精神的にきんちょうがつづき陣痛のような腹痛があった」(川西/川西 4/12 40/経産/自然)。「妊産婦は、やはり1人の身じゃなく、おなかにかかえているので精神的にも、不安定だし…やはり安心できる場所(家)がないと、それと、トイレがすごく近くなるので自分自身も地震直後、何十回とトイレに行きました。トイレの確保も必要だと思います。食べる物も、一時、異常に食べました。地震の次の日だったんですけど、やっぱり、精神的に不安定だったからかなと思います」(尼崎/尼崎 4/14 40/経産/自然)。「とにかく、すぐにでもお腹の子の無事を知りたかった。が、実際には、交通の便がなかったり、私自身地震の恐怖で外出がおそ

ろしくなり、臨月に近いお腹をかかえて混乱した街中を歩く勇気がなかったので、まわりが落ちつくまで病院で受診できず、不安な数日間を過した。何かあったらすぐに受診できれば、どれだけ安心できたかと思う」(伊丹/尼崎 2/21 38/経産/自然)。「男の人が仕事へ出てしまった後、昼間は女・子供だけになってしまい、給水所と家を行ったり来たりし、食糧を探して、2～3軒のお店をまわる毎日で無理をしなければ、生活して行けない状態で、今、流・早産しそうなれば、どうになってしまうか不安な毎日でした。生活がやっとで検診に行くところではなかった」(西宮/西宮 3/24 38/経産/自然)。「私は10ヵ月のころ地震にあい、精神的にゆううつになり風邪をひいてしまい、声まで出なくなりそしてせきがひんぱんにでてそのたびに、失尿してしまい大変な思いをしました。予定より早く入院したいなといつも思いました」(尼崎/伊丹 2/6 38/経産/帝切)。「地震の直後でもまだ余震がかなりあったので、夜寝るのがとても怖かったですが、家族の誰か一人でも、いっしょに部屋に泊まれたらよかったのと思います」(伊丹/尼崎 1/23 39/初産/自然)。「私の場合は帝王切開という出産の形がきまっていたので予定していた医院が被害にあい手術が出来ないと知ったときは不安と混乱で精神的にかなりつらかった。さいわい良い病院にめぐりあえたがそれでも万が一破水してしまったときのことな

ど考えると落ち着きませんでした(道路がどこも大渋滞で)」(垂水/北 2/10 39/経産/帝切)。

「私は初産の時帝王切開で2人目も最初から帝王切開と決まっていた。2月4日の出産でまだ余震も続いていたので手術中に大きな地震がきたらどうなるのかなと終わるまで不安でした」(尼崎/尼崎 2/4 38/経産/帝切)。「私の場合2人目の出産だったので、1度目の子供の時より楽にお産できました。でも1人目の時は、誰でもいい、側にいてほしいと思っていて、実際主人が立ち会ってくれました。不安でいっぱいのお産ですから、地震など急な時、妊婦本人だけを避難してもらうのではなく、家族共に避難できれば出産時に安心でき、その後のかいふくも良いのではと思うのですが…」(尼崎/尼崎 1/29 38/経産/自然)。このほかにも妊娠・出産と震災にまつわる当時の不安を記したものがたくさんありました。

「今回の地震で、今までの生活がいかにもろいのかよくわかりました。私自身、自分では地震の影響などなにも体にうけていないと思っていたにもかかわらず、3ヵ月も早くうまれてしまいました。精神面のケアが、いかに大切か、今回の出産でつくづく思いました」(垂水/須磨 2/28 27/経産/帝切)。「先の非常事態に際しては暖房がとまっていたにもかかわらず精一杯のことをしていただいたので無事元気な子供を生むことができた。むしろその後のメンタルケア

を必要とした。PTSD(?)とまでいかなくとも乳児を抱えてめちゃくちゃな精神状態になったが誰かに話をきいてほしいと思ってはどうしていいかわからなかった。経験した者でないとわからないと思うが」(川西/川西 1/23 40/初産/自然)。「私の場合、とても大きなショックを受け、精神的に不安定になり産後もそれが長く続いている。出産後のケアを大切にしてもらえたらと思う」(須磨/明石 2/16 41/初産/帝切)。「今回の地震後かなり神経質になり“おなかの子はだいじょうぶか”とか“お兄ちゃんはだいじょうぶか”など精神的にかなりダメージがあったように思います。よる、ねむれなかったり、少しのことでとびおきたりと言うように。ですので、精神的なケアをこまかくしていただければと思います。8カ月以上、地震後たっておりますが、まだ時々とびおきるようなことがありますので」(西宮/西宮 3/14 39/経産/吸引)。「晩期にかけては、精神面のサポートが大切なのかな…と思います。地震後、ノイローゼ気味の母が子を手にかけたという記事が新聞にのっていました。妊産婦に限らず出産後の母子に対しても長い目で見ないと、こわいなと感じています。たとえ親族であっても被災した人の気持ちは、絶対他の人には計り知れないと思います。はっきり言って批判が先に立ち、人事になってるんだろうと感じます。同じ様な体験の近隣がなによりたよりでしょう」(灘/灘 4/5 39/経産

/自然)。このように震災で増幅された不安が長く尾をひいていること、これに対して今後も注意しなければならないことが指摘されています。大人の妊産婦でもこのような例があるのですから、震災が直接子供の心に刻みつけた恐怖や間接的影響は深刻です。兵庫県では被災した小、中学校に子供たちの“心のケア”を担う教育復興担当委員 200余人を配置していますが、本書に登場していただいた妊産婦から生まれた子供たち、胎児の時期に大震災に会った子供たちはどんな影響を受けているのでしょうか。

13. 医 療 情 報

災害時に妊産婦の不安を軽減する医療情報とはひと口で言えば、「どこの病院が検診や出産可能な状態かということを知りたい」(東灘/須磨 2/24 38/経産/吸引)でしょう。電話の不通、交通マヒ、停電によるテレビの受信が不能などのため、さしあたりはラジオが有効な情報源です。「地震の時9カ月で安定期ではありませんでしたが、やはり精神的に不安定になり、よくおなか張りました。もし、ここで破水でもしたらという不安や、行っていた病院はどうなっているんだろうか診察してもらえるのだろうかといろいろやはり考えます。“情報”というのはつくづく大切だと思いました。どこの病院が開いているか診察してもらえるかなど、その情

報を、妊産婦には特に流してほしいと思います」(尼崎/多紀郡 3/14 39/経産/自然)。「情報の大切さをつくづく思った」のが、体験に基づく真実であると同時に、「非常事態というのは本当に非常なのだから、例えば必要な情報がわかるところをはっきり決めておいても実際に機能するのか心配。今度の地震があまりに非常事態すぎてよくわかりません」(洲本/洲本 1/20 39/初産/帝切)という懸念も現実の一面を指摘しています。

「私の場合は予定日は4日後、しかも6cm子宮がひらいていたのでいつ産まれてもいい状態でしたが地震の為最後の検診を受けたくても、まず、病院が建っているかどうか、もし存在していても検診や分娩をうけさせてくれる状態かどうか(もっと大変な怪我人の方々を優先させているかも…と思った)がわからず電話で確認したくても電話がつながらず非常に困ったし不安だった。だからもしできるならラジオ、テレビで診療可能(けがだけでなく)な病院等を情報としてながして欲しい(実際私の長男は当日高熱をだし病院をさがしまわったー小児科)」(西宮/東灘 1/21 40/経産/自然)。「検診、分娩がどこでうけられかなどの情報の迅速な公開。今回の地震で当日、翌日合わせて電話の問い合わせに4つの病院(公立3つ個人1つ)に分娩を断れました。理由はそれぞれ ①ベッドがない ②ガス、水道が使えない ③手が足りない ④

臨月に転院してくるなんてダメのどれかでした。"今、産気づいたらどうしたらいいのでしょうか"という問にも"そんなこと言われても…"と全部に言われ大変不安でした」(西/加古川市 2/12 42/初産/自然)。「里帰り出産を予定していましたが、上の子の幼稚園の都合でぎりぎりまで西宮にいました。地震当日やはりおなかの張りも感じ市内いろいろな医院にTelしました。つながらない、つながっても通院していないとダメ、手がまわらない、家で産みなさい!不安はつのるばかりでした。少ししてからTV、ラジオで、どこの病院なら…ということを知りましたが、もっと早く知る事が出来れば妊婦だけでなくいろんな方が心面だけでもすくわれると思います」(西宮/須磨 1/22 38/経産/自然)。「当日にお腹がいたくなって不安だったときラジオで(AM神戸)〇〇医院が異常のある人は来てくださいと放送して下さったので精神的にとっても安心しました(電話も不通で不安だった)」(須磨/西 4/14 40/初産/自然)。診療可能な医療施設をラジオやテレビが知らせるのはよいことですが、喜んで出向いても、結果的にはガッカリということが少なくないのです。「テレビ等で受付けてくれる病院名が流され、実際、そちらの方へ伺っても、受付けてくれなかった病院がほとんどだった」(北/北 2/1 38/初産/自然)。お風呂屋さんの場合と同様、必要とする人たちが殺到すると、たちまち"定員オーバー"

になってしまうからです。「今回の地震では病院に“出産できます”という確認をした数時間後に、できたら変わって下さいという病院から電話が入り交通困難の時にあわてて病院をかわりすごく不安な時期がありました」(西宮/豊岡市 2/10 40/初産/自然)。これも”お風呂屋さん現象”でしょうか、それとも単なる手違いでしょうか。「今回の地震で、全壊などで病院がつかえなくなった為被害の少なかった地域の病院が混雑し入院用の部屋がいっぱいでした。空いたら入れてもらえる状態でした。今後は救急時の入院用の部屋の確保もお願いできたらいいと思います」(西/西 4/6 38/経産/自然)。「地震後実家(加古川市)に避難し、予定日(2/3)が近づいていたので、もしもの時に備え、近所の産院に頼んだのだが、急に産気づいた人で満床でことわれ、仕方なく自分が産気づいた時は、陣痛をこらえ、3時間かけて(通常は20分で行ける)、通院していた産院へ行きました」(西/西 1/23 38/初産/吸引)。震災で医療の受けられなくなった人たちがあふれた結果、烈震地帯からかなり離れた地域でも妊産婦で込み合っていた様子うかがわれます。

「もとの病院にも保健所にも連絡がつながらずどうしようと1週間近く悩みました。情報だけでもほしかったです。1週間後区の医師会にようやくtelがつながっても”元の医院の先生は無事です”ということしかわからない状態でし

た。まずどうしていいのかわからないので話の聞ける窓口みたいなものは必要だと思います」(東灘/尼崎 4/13 39/初産/自然)。「今回の地震で入院する予定だったところに連絡がとれず、すごく不安だった。予定日を過ぎていたし陣痛もあったので特にそう思った。119へ電話しても出産に対応できる病院がわからないといわれ、どうしたらいいのかわからなかった。ああいう災害のときもっと早く対応できる病院の情報があればいいのと思った。たとえば、よていしていた病院からしょうかいしてくれるとか、できれば入り口にはり紙でもしてほしい」(灘/北 1/21 40/初産/吸引)。

どこへ行けばよいのかと思案し、「あちらこちらの病院で水がない、という事を聞き、検診にいくのをためらっていたため、早産に気付くのもおくらせてしまいました」(宝塚/宝塚 2/18 32/経産/自然)という人もある問題だけに、今後の改善が強く求められています。「どこにいけば診察がうけられるのかという情報をどこに聞けば、すぐわかるのか(119番以外で)ということ、日頃から、明らかにしておいてほしい」(東灘/中央 3/30 37/経産/帝切)。「たとえば、特別の窓口をつくる、とか、混雑はするけれど、行ったら一応は対応してもらえる事を事前に伝えておく事。(私よりたいへんな状態の人がいるだろうに……と思うと病院へ行けなかったの)」(西/西 3/22 40/経産/自然)。「出産予定

日が迫っている妊婦、切迫流産の危険のある妊婦、妊娠中毒症などの妊婦等、特に注意を払うべき妊婦について病院の方からそれらの妊産婦の安否を気づかう連絡、コンタクトをとるべき。緊急時にそれ専用のスタッフを用意して欲しい。そのためには自分の病院の患者の数とその状況を常に把握できていなければならない」(兵庫/兵庫 1/20 39/経産/自然)。「病院の被災状況(診察可能か否か)の情報が遅かったので重い身体で、自分の足で見に行くことになったので、できれば、せめて、通院中の患者(臨月の人)に特にへ、連絡してもらいたい」(東灘/伊丹 1/27 40/初産/自然)。「早産の心配があったのですが分娩(緊急)処置の可能な病院の情報がしばらくわからず不安でした。どこの病院が受け入れ可能かという情報をパソコン通信またはメディアで出来るだけ早く教えて欲しい」(東灘/尼崎 3/16 37/初産/吸引)。「私自身、地震の時は8カ月でそのすぐあとからお腹のはりがよくあり(特に余震がある度に)、また、何回目かの少し強い余震の時に(8カ月の4週目ぐらいで)お腹の赤ちゃんが逆子になったのでこういうときに私は病院の近くで震災後も家のあたりはそれほど被害も少なくで大丈夫だったのですが、いつでも連絡のとりやすい様になったらいいと思います(家の電話はすぐ混線したので)」(北/北 3/9 37/経産/自然)。

「色々なデマが流れ(大阪の病院へ行かされ

る、など)、私の場合、1人目の時からお世話になっている主治医だったので、直接、本当の事を聞く事ができ、不安もすぐ解消されましたが、聞けなかった人も多勢いたようですので、ハリがみでもいいですから、デマを打消するような事を書いた物を掲示して下さればなぁと思いました」(尼崎/尼崎 3/7 38/経産/自然)。「ガス爆発の恐れがあるとかで、避難勧告がでたとき、寒い中徒歩で避難しろといわれ、当惑した。お年寄りや乳児をかかえた方(もちろん妊産婦も)はどうしたのでしょうか。言われた通りした方や、そうでない方(じっとしていた方も多かった)、いろいろいらして、結局はどうもなくて、寒い中避難された方はバカを見た結果になりましたが、逆に大ばく発していたらどうだったでしょう。もっと、勧告の中身の必要性、どの程度なのかくわしくわからなくても最悪の場合どうなるかとか詳しく報道してほしいと思います。逃げたくても逃げられない人もいるのですから」(東灘/中央 4/14 38/経産/自然)。

本書はおもに妊産婦の手記で構成されていますが、これと同時に実施されたアンケートに妊産婦が回答した結果の一部を表4～6に掲げておきます。地震の時、回答者の1/4近くが激甚ないし強度の被害地区に住んでいました(表4)。激甚地区に住んでいた妊産婦の45%は住居が全壊または半壊し、40%は地震前に予定していた病・医院で出産できなかったと答えており、被

害の強度地区では、これらの数字が激甚地区の半数をやや上回っています(表5, 6)。

表4 地震の時に妊産婦が住んでいた地区

激甚	強度	軽度	無	他	計
6	17	34	37	5	100

注 1.「激甚～無」は表2(p. 5)の注を参照、
「他」は兵庫県外。

2. 数字は%(以下の表でも同じ)。

表5 妊産婦が住んでいた家屋の被害度

	全壊・全焼	半壊・半焼	一部損壊	なし
激甚	20	25	42	13
強度	8	17	47	29
軽度	2	8	50	41

表6 地震前に予定していた病・医院で出産できましたか

	激甚	強度	軽度	無	他
はい	60	78	89	97	94
いいえ	40	22	11	3	6

本章で読まれたとおり、妊娠と地震に加えて情報不足が妊婦の不安を一層かきたてました。今までかかっていた病院が被災して受診も出産もできないのなら他院を紹介してほしいというのは、電話や交通がマヒした非常事態にさらされている妊婦として当然の要望です。被災した

病院がこの要望に応えるためには、他院についての情報を入手しなければなりません、その実情はどうだったのでしょうか。序文に記した「報告書」のデータによると、他院で外来診療や分娩が可能か否かの情報を入手したのは、激甚および強度地区では平均して1月28～31日、すなわち、地震後2週間近くも過ぎた頃で、しかも、情報の入手源として最も大きいのは一般市民の場合と同様、ラジオやテレビでした。

14. “ひとこと”の 効果

「今回の地震で私が感じた事は看護婦さんの1本の電話でした。”だいじょうぶ?”それだけでしたがすごくうれしかったです。妊産婦は何かと不安がつきものです。一声がすごく助かるときもあるのだなあと思いました」(須磨/中央 3/21 38/初産/吸引)。「地震から1週間ほどたったときに助産婦さん(出産予定の病院)から電話をいただいたことがとても嬉しかったです。とても落ち着きました。非常事態の時は誰しもが不安にかかります。そんなとき多少日にちがたっていても妊婦であれば検診を受けていた医院などから連絡があれば気分が落ち着くのではないのでしょうか」(西/西 4/8 39/経産/自然)。「病院が良かったのか、場所的に良かったのかわかりませんが食物、医療に関しては不自由なくすみしました。又主治医〇〇先生も心配

し自宅まで連絡してくれました。そのときはすごうれしかったです」(津名/西 2/11 40/初産/自然)。「院長先生の方から、直接にお電話をいただき、とても安心し、出産の心配がすっかりなくなりました。あたたかい言葉とどんな状態でも産める病院があるということだけでいいです」(北/中央 2/20 41/経産/自然)。「出産予定の病院がガスも水道もダメということで、出産は無理ではと不安になっていると先生の方からわざわざ電話を頂き、大丈夫だから安心して来なさいと言ってくださり、その力強い口調に不安も吹き飛びました。ほんとうにありがたく思いました。精神的な不安を取り除いてくれるということがいかに妊婦にとって大切かということ、ひとりひとりを大切に思って頂きたいと思います」(三原/明石 1/26 39/経産/自然)。「私は1月20日が出産予定日でした。地震後3日では帝王切開の場合対応してもらえなかった。手術に対応する病院がどこもなかったらどうしようと思った。とても不安な日々を過ごした。唯一ありがたかったのは担当の先生からの電話のアドバイス、やさしいおもいやりのある言葉でした。つぎの病院への紹介など親切にしてくださいました。だから今でもありがたいと思っています」(須磨/西 1/20 38/経産/帝切)。電話でのひとことが心の大きな支えになったという妊産婦はこのほかにもありますが、いずれも病院の被害がひどく電話の復旧も遅れた激震地

からは外れた地域に住んでいた人たちです。

電話での対応に限らず、ことばのやりとりが妊産婦の心理を大きく左右するのは病院内でも同じです。これも一部だけ紹介しましょう。

「救急のためだけの診察ではなく妊婦の検診は行ってほしいと思います。初めて妊娠した人は少しのことでもすごく不安になります。検診での安心感がとても大切な事だと思います。今回、余震が続いていましたが医師の“お腹の赤ちゃんは元気ですよ”という言葉で明日への希望もわいてきましたから」(西宮/西宮 3/14 40/初産/自然)。「私がお世話になった〇〇病院では先生をはじめ助産婦さん、看護婦さん全ての方が本当に親身にケアしてくださり、7ヵ月たった今でも感謝の気持ちで一杯です。私自身当日は実家で下敷きになりひっぱりだされてからは道路に座り込んだり〇〇病院の独身寮で(未入居の)休ませてもらったりしながら夕方に小学校に避難し PM11:00ごろに救護所から運んで頂きました。子宮口3cmでお産が始まっていたが1月19日AM7:18迄の長いお産になりました。その間もあんな緊急事態のなか、常に声をかけてくださり又、励まして下さった助産婦さんに本当に勇気づけられました。産後心のコントロールができなくなり助産婦さんの前で大泣きしたときも穏やかに話を聞いて下さって嬉しかった。又、他の方も細やかに気づかっていたのが身にしみてわかりやはり精神面での

ケアが重要ではないかと思います」(西宮/東灘 1/19 39/初産/自然)。「水道、ガスが使えない中、病院まで徒歩圏であることと病院側の“いつでもお産できます”の一言がとても心強かったです(地震当時妊娠9カ月でしたので)」(垂水/垂水 2/15 37/経産/吸引)。「1月17日の大震災で須磨区の夫に実家が全壊しました自宅もライフラインの寸断でいろいろ大変でした。そんななか1/28に〇〇産婦人科を受診しましたが水もガスも止まったなかで Drやナースさんがいつもとかわらない笑顔で診察をされていることに安心し勇気づけられる思いでした。待合室にも救護物資が並べられ産後の方はとくに助かったのではと思います。非常事態にさいして正常な状態にある妊産婦にたいする援助としては心のケアが大切だと思います。ナースと話をするだけでもずいぶんところが楽になる」(垂水/須磨 3/20 40/経産/自然)。「私は地震の翌日が34週の検診日で次々と地震の被害にあわれた方が運ばれる中、すごく不安な気持ちで来院したのですが、ふだんどうりに診察してくれて医師、看護婦ともに気付かってくれて、災害の直後でも“いつもどおり”に対応して頂けた事にすごく安心を感じました。ただ出産が夜中だったために分娩室に入ってから医師がなかなか到着せず看護婦が“まだか、まだか”と言っているのを聞き少し不安でした」(洲本/洲本 3/1 40/初産/自然)。「出産にたいする不安を持っている

うえに非常事態に対する不安がつものっているので診察の時に(先生方も忙しいとは思いますが)一言でいいから“地震など大丈夫でしたか”と言ってもらえると少しは気が落ちつく様に思います」(西/高砂市 2/5 37/経産/自然)。「地震前、私は〇〇病院で検診を受けたり流産くりかえしの為、入院させてもらってましたが地震後、通院できなくなり△△病院へ行きましたが、先生には“この病院へ急に来院されてもお産は無理だ”とか、“以前のデータがないのでむづかしい”などと言われかなり落ち込んだ。グチャグチャといわれ精神的にまいった。結局〇〇病院でのカルテを持参したが、たまたま主人が医療関係の仕事なので〇〇病院までカルテをとりに行ってくれましたが、もし足がなければ妊婦が西区からポーアイまでいけたでしょうか。そのような場合せめてファクスを流してほしかったです。〇〇病院の先生は即快くカルテを書いて下さったようですが、△△病院の先生の対応がとても冷たく思いました。“この病院へ急に来られてもベット数が足りない”などいわれたのはショックでした。それで私は“私はどうしたらいいんですか?”といたしましたが、ただたんに診療するだけでなく地震でおなかのbabyはどうでした? などやさしい言葉も欲しいものです」(西/西 4/5 37/初産/自然)。「陣痛で苦しんでいるときも余震にあってしまいとても不安な思いをしましたが、看護婦さんが大丈夫です

よって大きな声で叫んでいたことがとてもホットできた」(伊丹/宝塚 4/6 38/初産/吸引)。

“ひとこと”ないしおしゃべりの効果は、むろん医療関係者相手の場合のみとは限りません。「とにかく私はストレスがたまったので誰かに話を聞いてほしかったです」(宝塚/宝塚 2/15 38/初産/自然)。「妊婦は、いつも、自分の状態について、不安を感じていると思うので、身近に相談相手がいると、うれしいと思う。だから、避難所などでは、妊婦さんばかり一ヶ所に集めるとか、週一回程度、問診だけでもいいので、医師に来てもらうなどして、不安やストレスが、たまらないようにしてほしい」(中央/北 4/11 39/経産/自然)。「これと言って“ああしてほしい”“こうしてほしい”って言うのではないけど、そう言う時は、おなかに子供がいるので、よけいに、落ち込んだり、考えたりすごく淋しくなると思うので、みんなが優しくしてくれて、話しかけてあげればいいと思う。ぜったい話しかけられたら、うれしいし、心の支えにもなると思う」(灘/灘 1/22 39/初産/自然)。「はげましというよりこちらの話をきいてそれに一生懸命こたえてくれる姿だけで、どうであれ自分も頑張ろうという気持ちになります」(兵庫/兵庫 4/21 38/経産/自然)。「検診はもちろんの事です精神の安心感を与えて欲しいと思いました。妊婦も大変だけど胎児も頑張っているのよというはげましも…これは医療の方でなく誰

からも声をかけて欲しいですね。それとかたよらない食事と寝れる場所…でもこれは非常時にはむづかしいですね」(伊丹/伊丹 3/17 41/初産/自然)。「私は震災後1人でいることがこわくて(特に夜、停電の暗さがショックだった)近所の気どころ知れた方のところに主人が帰るまでお世話になりました。できればカウンセラーやセラピストの方などのいる場所でリラックスして、他の人々たちと話をできる場があれば(逃げ場のような)と思いました。近くに知ったひとがいなければ、出て話すこともないでしょうから」(明石/赤穂市 4/14 40/初産/自然)。「やはり被害にあった人には心からの一言がうれしいものです」(長田/須磨 4/5 38/経産/自然)。「みな様のあたたかい言葉が大変うれしく思いました」(灘/高砂市 3/1 39/初産/自然)。「医療というよりもやさしい言葉で救われたという人が私のまわりで多かった」(明石/北 3/8 39/初産/鉗子)。

15. 地震当時の病院

「一度退院するとなかなか通院もできないので退院するのが怖かった。私のかかっていた医院は産科、内科、小児科をかねてて安心できたので」(灘/灘 1/20 38/経産/自然)。「テレビで、まだ生後1～2カ月くらいの子(もっと小さい子?)を連れて避難所におられる方がいらした

ようで、子供だけでなく親も大変だと思いました。1週間の入院後も、帰る場所がない方など、おちつくまで、もう、しばらく入院できるという設備がないのかなと思いました。せめて、親の体力が、すこしでも回復し、子供がすこしおちつく1カ月くらいまで」(尼崎/城崎郡 2/7 37/経産/自然)。「分娩のあと退院する時期あっても、家のつごうでどうしても無理なときは相談の上、病院の方でベットをあけてほしい(ベットでなくても場所の一時提供)」(尼崎/尼崎 4/6 40/初産/自然)。このほかにも、病院を医療の施設というより緊急避難場所として期待する声があり、心情的にはよくわかるのですが、被災して水、電気、ガス、電話など、ライフラインが切れた病院での住み心地は決して良いものではありませんでした。「水が使えないためボイラーが作動せず、病院内がとても寒く内診をうけるときのガタガタふるえてしまいました。トイレも水が流せないので使うのをちゅうちょしました。病院は非常時でもできるだけ診察ができるよう設備を整えてほしいと思います」(東灘/灘 3/6 41/経産/自然)。「ちょうどガスが通っていなかった時の入院だったので、産後のシャワーが全くできず(12時間病院で)気持ちが悪かったのでプロパンなどができないものかと思いました」(西宮/宝塚 2/7 42/初産/帝切)。「今回の場合冬でしたので入院中暖房がなかったのが一番つらかったです。入院後夜中

に破水し寒い階段を一人で上がり、寒い診察室にひとりで下半身裸で待たされたときは寒くて歯が鳴りました」(北/中央 3/7 40/初産/自然)。「私は地震当日切迫早産で入院していました。もしもあのとき水も電気もないところで未熟児が生まれていたら…と思うと今でもぞっとします。『もし今生まれたら助からないかも…』といわれました」(長田/須磨 3/10 40/経産/自然)。「電気・ガス・水道など、災害で停止するのはしかたがないことだと思うが、特に病院では1分1秒でも早い復旧が望まれると共に病院では水などの確保(優先)を考えてもらいたい」(宝塚/宝塚 1/17 39/初産/自然)。「地震の時、新聞やTVなどで電気がとまったりした時、新生児室や病院など暖房がきかずに毛布などをかぶって、赤ちゃんにひっついて、あたためあったとろうそくの火だけの出産になったとか、私自身はそういう目にあわなかったけどさぞ心細く不安だったと思う。でも人間って強いなぁと思った。病院だけは、自家発電のようなもので、せめて新生児室だけでもそういうことにならないよう希望したい」(須磨/須磨 4/15 37/経産/自然)。「自家発電等で、緊急の手術等にも対応できるようにしてほしい」(須磨/須磨 3/7 40/経産/自然)。「水がたらなくて困ったとか、電気がこなくて手術できなかったとかテレビや新聞などで知って医療施設はもっと設備を整えて欲しいと思った。また耐震や耐火にも

気を使って欲しい」(西/兵庫 3/29 41/初産/帝切)。「分娩中に地震が来た時に分娩台から落ちる事もあると思うので、体にベルトがつけられるようにするか、台を低くするなどしてほしい」(垂水/須磨 2/16 39/初産/吸引)。「地震の時は、〇〇病院に入院していて、橋がだめになり、とても不安な日々をすごしました。暖房もきれ、食べるものもつめたくて、大病院のシステムがこわれるとあそこまで非人間的になるのかと思い知らされました」(兵庫/須磨 1/31 37/経産/自然)。

上記の人たちは、病院で一応の処置を受けられただけ、まだ幸せだったのかも知れません。「地震でガレキの中に、うまっていたので救出されてから、近くの総合病院に行きましたが、婦人科の先生がおらず、診察してもらえませんでした」(長田/須磨 2/3 41/初産/自然)。「地震の時、マンホールのふたがあいていたのに気づかず、足元が見えにくかったため落ちそうになり、腹部を打ったため、いつも通院している医院ではなく、〇〇病院へ近所の人が車でつれていってくれましたが、外科でしかうけつけてもらえず産婦人科の診察をうけたいと言っても具合が悪くなるまで車の中で待つようにと言われ、結局そのままみてもらえそうになかったので、いつもの病院につれて行ってもらった。外科は出血の人は見れば急を要することがわかるが、妊産婦は表を見てわからないが体内で異常

があるかもしれないことがまわりにわかってもらえずずっと後まわしにされるのでずっと不安な時間をすごすことになるので、受け付けは外科だけと言わずせめて場所(産婦人科)の案内だけでもしてほしいかった」(伊丹/伊丹 4/13 41/初産/自然)。「今回は地震後半日は全く胎動がなく、又、丁度検診日でもあったので病院にTELすると、病院が機能していないので様子をみて下さい、と告げられた。その3日後に出産しましたが、切迫早産で入院安静していたりで…陣痛発来もわかりにくかった」(西宮/西宮 1/20 40/経産/自然)。「当日と次の日は急患の人のみで一般は3日目からでした。しかし、妊産婦はやはり赤ちゃんの事が心配でした。詳しい検査をしてほしいとは思いません。しかし、大丈夫かどうかの検診ぐらいは即日でもよかったのではないのでしょうか。これはやはり私の身勝手でしょうか」(垂水/明石 3/5 36/経産/自然)。「私が地震の2日後に検診に行った時のことです。受け付けに他の病院で受診していた妊婦さんから電話がかかって自分の受診していた病院が地震でなくなったのか病院に行けならしくその病院で産ませて欲しいとの電話だったらしいです。けれど受け付けでは「水がなく不衛生で手術もできないので今まで受診した妊婦さん以外のお産は出来ません」とのことでした。たしかに病院はパニックでトイレも使えない状況だったしけが人ばかりだったのですがもう

お産の始まっている妊婦さんがあのように断わられるのは同じ妊婦としてつらかったです。どのような災害時でも今まで受診しなくても誰でもどの病院でもお産できるシステムがあればと思います」(垂水/垂水 2/26 38/初産/吸引)。

「地震のあと数日後私は40度近い高熱が出て病院へ行こうとしたが下敷きになった人や死んだ人でいっぱいでもてもらえらる状態じゃなかった。自分一人ならいいけどおなかの子供がすごく心配なので実家まで帰ってみてもらった。そんなとき何とか近くでみてほしかった」(西宮/西宮 4/5 39/初産/自然)。「医院も被害にあっており、ものすごい状態の部屋で地震の3日後にみてもらうことができた。友だちのところはちがう産婦人科だが、地震以後2カ月たっても“見通しがつくまで休業”とはり紙をしたままお医者さんが行方不明になっていて、不安そうだった。天災は予知不可能だから、実際にあったとき、妊産婦は必ずここにいけば安心して診察もうけられ、赤ちゃんもうめるという施設が必要」(東灘/東灘 3/4 39/経産/自然)。「骨折、けがの出血でも受診できないくらいなので、イヤでも妊娠していることなどわすれてしまわなければならない状態でした」(垂水/東灘 4/6 36/経産/帝王切)。「最初の頃、神戸から明石へに道がなくなり、どこで産もうかと思った時、近くの病院は一杯で、どこも“うちはダメ、他を当たって下さい”とたらいまわしにされました。その

辺をなんとかしてほしいと思います(予定日より遅れたからいいですけど)」(北/明石 2/1 41/初産/吸引)。「安心してお産のできる場所(病院)を確保してほしい(水、ガス、電気、食事、スタッフ等)。私の場合は地震前にかかっていた先生のご厚意により実家に近い病院を紹介してくださり安心してお産することができました。地震前にかかっていた病院の色々な状態をみるととてもお産のできる状態ではありませんでした。食事どころか水さえもなくもちろんまっくらでした」(灘/北 1/26 40/経産/自然)。

「カルテなしでも、すぐに見てくれた〇〇病院にとっても感謝しています。どう伝えたら良かわかりませんが、心からリラックスして、生む事ができ、とてもうれしいです」(東灘/尼崎 3/6 42/初産/自然)という経験が語られている一方、病院の対応に不満不快を感じたという声も収録しておきます。「〇〇産婦人科にずっと通院していて地震が起こり不安な中、予定日(1/10)を2週間もすぎ、その間5~6回通っていたのに、何も言われず胎盤きのうが低下していて自然分娩はむずかしい、うちでは医者も看護婦も集められないので分娩中何があっても責任がとれないと言われ、△△病院に移され、即、入院となった。翌日出産、無事に産まれてきてくれたのでそれ以上の事はないけれど、その病院の対応のし方は許されなく、とても不安でした」(伊丹/伊丹 1/25 42/初産/自然)。「電話で

問い合わせたところいつも通りですということ
で病院にいったところ具合の悪い方のみ検診す
ると言われました。私はすごくいやな気分にな
りました」(西宮/尼崎 1/31 39/初産/自然)。

「〇〇市内のある救急病院でイヤイヤながらの
電話対応と場所説明で目印の物が夜だから見に
くいけれど来れるんなら診てもいいというよう
な言い方をされたのがとても腹立たしくすま
す不安な状態に追い込まれたのを覚えています。
公立病院だけでなく私立病院も広い範囲で受け
入れて欲しいし、どこの病院へ行けばいいのか
というような情報をより早く確実にながして欲
しいと思います」(兵庫/明石 4/7 38/経産/自
然)。「大災害の時はけが人の処置で手がいっ
ぱいで出産ぐらい自分でなんとかしてという雰
囲気の公立病院があったことをおなじときに入
院している人から聞いた。わかるような気がす
るが出産に対する不安を理解してもらって平常
時と同じように対処してほしい」(中央/中央 3
/5 39/経産/自然)。

16. 病院間の連携

妊産婦が“門前払い”に会ったのは前章で見
たとおりですが、診療できないなら他の病院を
紹介すべきではないかという意見が出ています。
「今までの診療ではありませんでしたが、今回
の震災時に今までかかっていた病院に診療を依

頼したところ(電話でしたが)看護婦が非常に動
揺されており“出産の兆しがない限り来院はし
ないで下さい”と言われた。被災地であり大勢
の患者さんがこられているのはわかっていたが
妊娠と同時に診療に通い入退院を繰り返してい
た私は、私の状態をご存じの先生に診ていただ
く事が安心なのに見放された気持ちになりとて
も不安に感じた。診療ができないのならどこか
紹介してくれるとか自宅での注意とか言葉が欲
しかった。とにかく“来るな”としか感じられ
なかった。大災害の中、誰もが困惑していただ
ろうが“病気をもった妊産婦”を思いやるひと
ことがなかったものかと思った」(灘/灘 2/23
39/初産/自然)。「予定日を過ぎた状態で地震
にあった友人は、被災してしまったかかりつけ
の産婦人科医に連絡をとると、“それどころでは
ない”と言われたそうです。予定日の近い人く
らいにはせめて代わりの医者を必ず紹介してほ
しいと思う」(宝塚/宝塚 4/2 41/経産/自然)。

転院のための紹介状について、「今回のこと
で、お産を予定していた医院から、お産が出来
ないとの連絡を受けた時、“他の病院への紹介状
を渡すので取りに来て下さい”と言われました。
地震のため、交通の便が悪くなっていたので、
とても困難なことに思われました。今回は、幸
い、母が自転車で2時間かけて取りに行ってく
れましたが、もし、誰もいなかったらと思うと
…」(西宮/尼崎 1/26 40/初産/自然)。「東大

阪の主人の実家に帰ったときの事です。地震で妊娠8ヵ月の私は大人3人でやっと持ち上がったタンスの下敷きになってしまいました。〇〇病院で検査をしてもらったら胎盤に影がうつっているので避難先の病院ですぐに見てもらってくださいと紹介状を書いてもらいました。しかし東大阪の病院は(3ヵ所)「責任が持てない」「ここで出産してもらえらるなら」という理由でことわられました。こういう非常時に診察してもらいたかったです」(西宮/西宮 3/23 37/経産/自然)。「地震で通院中の病院が少しの間閉まってしまったので不安になり大阪の方の病院へ転院を問い合わせたところ今までの病院の紹介状をもってきてほしいと言われ、通院中の産科は閉まっているのにと腹立たしく思いましたがすぐに産科が開いたので今までとかわらず通院できましたが、いつ開院するかわらないには不安でした」(尼崎/尼崎 3/14 39/初産/自然)。「どこの病院でも母子手帳を持っていけば紹介状がなくても診てもらえる様にしてほしい。その場合一時の診察だと診てもらえるが最終的に出産までかかるとなると(後期に入っていたこともあるが)紹介状がないと診れないとことわられた病院もあった。この震災ですぐにはカルテはとり出せない状態で、すぐには紹介状は書いてもらえない。なのに紹介状がないと診てもらえないで(8ヵ月なのに)出産病院が決まらないいらいだちと不安でいっぱいでした」(須磨/西 3/3

37/経産/帝切)。「急に産気づくと不安になるので紹介状がなくても受け入れてほしい。地震後ある病院へ電話したら紹介状がないとダメといわれた。出産をした病院はこころよく受け入れて下さったので感謝しています」(東灘/西 1/27 41/初産/帝切)。

転院した人たち、「今回私はにんしん8ヵ月で10kg以上体重が減り10歩も歩けば息が切れるという状態で1月には入院を予定していました。その矢先の地震おまけに娘のインフルエンザをもらい地震の翌日には40℃以上の熱が続きフラフラの状態、お腹はキンキンに張り1歩もあるけなくなりました。産婦人科にも連絡がつかず、もうだめかと思いました。そこへ義弟の姉夫婦が避難してきたのですが、運のいいことにご主人は産婦人科のお医者さんということで家に寝たまま点滴してもらいました。薬もいろいろもらって少し落ち着き実家まで車で避難することができました。私は運がよかったと思います」(西宮/神崎郡 3/20 41/経産/自然)。「今回の地震では病院に通院できなくなり本当に不安でした。出産予定日が近かったこともあってすぐにも診察を受けたかったのですが病院は妊婦検診どころではない状態で行っても診てもらえない状態でした(救急以外は診られないと断われました。交通がストップして行きたくても行けないのが現実でしたが)。地震のショックで体調をくずしいままで慣れ親しんでいた先生の

診察も受けられず不安でいっぱい臨月でした。幸い無事に娘を授かり安堵しましたがもう2度とあのようなことがおこらないよう心から願っています」(灘/北 2/27 40/経産/自然)。「かかっていた病院が全壊しもよりの病院を探したが、けが人や重病人が優先され妊産の入院はあまり歓迎されなかった。状況は理解できるが自分の安心出来る土地で出産できなかったのは残念です」(東灘/川西 2/4 38/初産/吸引)。「ライフラインが、止まると、いつ生まれるかわからないので、計画を立てることが、できません。〇〇病院から、3つの病院を紹介されましたが、地震の場合は、長期にわたり、交通事情に影響を及ぼすので、もっと多くの受け入れ先が、ほしいと思いました。地域の方々の援助が必要で、日常からの交流が、大切ですね」(西宮/伊丹 2/14 40/初産/自然)。「切迫早産のおそれがあるので(上位破水していた)安静といわれていたときで1週間後の検診の日に道路がこんでいていけそうにないので病院へ電話して指示をあおぐと近くの病院でみてもらってくださいといわれたので近くの病院に2軒電話したが、水がないとか、手が足りないとかでことわられた。結局実家の近くの〇〇病院でみていただけたが、もっと地域の病院がその地域の人に対してやさしく応対してもらいたい」(垂水/北 2/28 41/経産/自然)。「別の病院に変わる場合、血液検査etcを再度やり直しました。FAXなどで前の病

院からとり寄せるなどできないでしょうか？私の場合10カ月で、お腹も大きく長い間待って検査してとても疲れた記憶があります」(垂水/西 1/23 39/初産/自然)。「この度は通院しておりました病院も最初対応不可とのことでしたので9カ月の私はすぐ生まれるようなことになるとどうすればよいのか？と、とても不安になりました。ご紹介下さった病院は遠くて行けず近くの所を探すというありさまでした。また、何かあったさいすぐ病院へいこうにも災害時ですのでタクシーなどもほとんど通っておらず一人で動くにはとても難しいものを感じました。こんな災害時は無事出産出来るところの確保が妊婦には安心につながります」(中央/中央 2/20 37/初産/自然)。「今回の地震で通っていた病院が(避難命令が出たこともあり)玄関のはり紙ひとつなしで連絡不能になり心細い思いをしました。せめて紹介して下さるとか他の病院に移るとしても何か方法がなかったものかと思いました。突然、診察に行った〇〇病院では親切にしてください安心して出産できました。病院側も被災者だとは思いますが出産という大変な時に産婦が安心してのぞめるようお願いしたい」(東灘/灘 2/1 40/経産/自然)。「避難先の病院では被災者であることがわかっていたので特に、ていねいに見てくださったのがとてもうれしく思いました」(灘/灘 3/3 39/経産/自然)。「出産当日、急に〇〇病院で受け入れて

頂き感謝しています。他の産婦人科では断られましたので、非常にありがたかったです。車で向かったのですが、△△町から〇〇病院までの道路は大渋滞、約2時間かかりました。途中、□□警察の方にパトカーで先導して頂きましたが、やはり、交通の面で、スムーズにいくよう希望します」(宝塚/宝塚 2/11 39/経産/自然)。「今回37週の時点で病院を変わったのですがいやな顔一つ見せずに皆さん快くむかえてくれて不安を抱えた私にとってはとてもうれしく心強かった。ただ転院の際まえの病院からの診断書があった方がいいとのことで道路事情の悪い中、診断書を取りにいったのは大変でした。このような非常事態においては肉体的にはもちろんだが精神的にもかなり不安定になっているのでやさしい言葉や態度がなによりだと思う」(西宮/尼崎 2/14 39/初産/吸引)。「私が出産した〇〇病院は普段は予約制の病院だったのに、地震の為他の予定していた病院に断られた私を予約なしでも受け容れて下さった。そして大変ていねいに診察もして頂き本当に感謝している。妊婦に安心を与える心配りは素晴らしいと思った」(垂水/垂水 2/23 40/初産/吸引)。

転院はしなかったものの、かなり不安定な経過をたどった妊産婦たち、「1月25日、震災後、初めて9カ月の検診に行きました。〇〇病院で大丈夫かと不安でしたが、今さら病院も変えたくなく、行きましたが、検尿の際、手を洗う水

もなく衛生的な面で、ショックを受けました。帝王切開のため2月28日に入院した時は産婦人科病棟にはほとんど妊婦の姿はみえず、被災された外科や内科の方が入院されていました。ここでも本当に大丈夫かなと不安な思いをしましたが「3月にはどうか大丈夫でしょう」との先生の言葉を信じて、はじめから受診していた病院で出産しました。3月にはいると妊婦さんも増えはじめ、やっと落ちついた様に記憶しております。いろいろ不自由な中、看護婦さん方もよくして下さいました」(西宮/西宮 3/2 38/経産/帝切)。「自分自身、転院をしようか、ずいぶん迷いました。内科、外科等と違って婦人科はやはり“慣れた病院が一番”なので転院はしませんでした。それでも状況によっては転院した方が良い時もあるでしょうし、スムーズに行われるようになっていれると思います」(宝塚/宝塚 4/11 40/初産/自然)。「予定日の翌日に病院が復旧しなんとか出産にこぎつけましたが地震後ずっと電話をかけても産科だとつげると取り合ってくれずとても不安になりました。市内の病院に頼んでもみな断われ〇〇病院など転々としリスクを覚悟で元の病院へ戻りました。妊産婦はみんな置き去りにされたといってもいいのではないのでしょうか。平穏時には丁寧すぎるほどの指導を受けていただけにみなさん呆然となったのでは……」(宝塚/西宮 2/23 40/初産/自然)。病院間の連携が悪いと妊産婦や

乳児に重大な差し障りを生ずる場合もあります。「連絡手段のまひ交通状況のまひなどにより車のない私にとって不安だらけでした。出産間近にしての地震でお腹は痛くなり病院には連絡がつかず他の病院も手いっぱいであうけただけなかったためになんとかかかっていた病院に連絡をとりやっとの思いで1カ月早く産むことができました。しかし赤ちゃんが呼吸困難となり〇〇病院に入院、その後も原因不明の発達のおくれがあり1年でやっと安心できる状況になりました。やはり〇〇病院の先生のお話しでは何かの(地震による)影響は否定できないだろうとのことでした」(垂水/須磨 1/27 29/経産/吸引)。「災害とは無縁ですが、私の友人が3年前8カ月早産でしかも自宅で出産してしまい、赤ちゃんはそのような設備のある病院を探すのに時間がかかったせいか、今でも障害をもっています。哺育器の空きなど、いろいろな病院の設備がすぐわかるような病院どうしの横のつながりをしっかりとしてほしいなと思います」(伊丹/伊丹 3/2 39/経産/吸引)。「私の場合10ヵ月に(地震が)おこったため週の1回の検診を受けることができず妊娠中毒症にきずくのが遅くなりしんどい思いをしました。体を見ていただくことも大切な診療ですがこういうときは心も一緒に診療していただければすばらしいと思いました」(中央/中央 2/22 41/初産/自然)。「知人が地震当日に出産し子供にチアノーゼが

でたため子供のみが他の病院へ移送されたが混乱の中で一時子供のゆくえがわからなくなったときいた。そういう連絡的なめんでの充実が望まれる」(西/西 3/15 39/初産/自然)。

大規模な災害の場合は他府県との連携が必要だという声もあります。「災害をまねがれた他府県の病院にスムーズにバトンタッチ出来るようなシステムがあればと思います」(垂水/中央 2/27 38/経産/帝切)。「病院間での非常時の連絡網を作ってほしいです。私の場合産み月ではなかったので自力で病院をみつけましたが予定日前後だったらとおもうとゾットします。他府県との非常時の紹介病院を作ってほしいです」(尼崎/尼崎 3/15 32/経産/自然)。「私の場合一人目が帝切で、今回は自然分娩を希望し努力していた所、この震災にあいました。かかっていた病院は、被害がひどいので他をあたってほしいとのことでした。電話も不通の中、公衆電話で病院をさがしかけるのも大変でした。病院をさがしても地震の直後は、道路が、パニック状態で病院まで5・6時間もかけて行かねばなりませんでした。非常時の備えとして、近くの市や県の病院リスト等を母子手帳といっしょに渡す様にすればどうでしょうか」(東灘/尼崎 1/25 40/経産/帝切)。

「どんな事態になろうとも、妊産婦が安心して出産できる体制を確保するよう医療機関間の通信、援助を希望します。この度の震災でも、

バイクで運ばれて帝王切開をした方がいるなどの話をきいて、とても感動しました」(西/西 1/31 40/経産/自然)。非常事態だったとはいえ、バイクで運ばれて帝王切開というような事例は今後は繰り返されないようにしなければなりません。「どのような事が起こっても出産というものは、止めることができないので、常に診療を受けられるような、体制をとっていただきたい」(宝塚/伊丹 3/16 39/初産/自然)のは妊産婦として当然の要望ですから、「幸いにも病院の被害は少なく、予定通り出産できましたが、病院が倒壊し出産できなくなった方が、他の病院をいそいで探している姿もみられました。前もって“この病院が何かあれば〇〇病院へ行って下さい”というような情報があればいいと思いました」(宝塚/宝塚 1/21 40/初産/自然)、「病院がいっぱいでたらい回しにされると大変なことになるので、妊産婦だけの救急センターがあれば良いと思う」(須磨/須磨 4/8 27/初産/自然)、「いつどこの病院へいっても、今まで

表7 病・医院の被害度

	全壊・全焼	半壊・半焼	一部損壊	なし
激甚	38	14	34	14
強度	12	19	60	8
軽度	0	12	60	28

注 1.「激甚～軽度」は表2(p. 5)の注を参照、
2. 数字は%(以下の表8～10も同じ)。

の検診を受けていた病院と同じように検診や今までの状態がわかるように横のつながりをとってほしい」(東灘/尼崎 1/26 37/経産/帝切)などの希望にこたえられる情報網の構築と妊婦の移動手段を検討しなければなりません。

序文に記した報告書の中から、産科施設の被害状況などのデータを表7～10に転記しておきましょう。全・半壊した施設は被害の激甚地区で半数以上、強度地区で3割に達し(表7)、休

表8 休診したか

	は	い	いいえ	計
激甚	75		25	100
強度	71		29	100
軽度	40		60	100

表8～10の
数字は%

表9 医療活動の支障となったこと

	ライフライン途絶	交通網のマヒ	情報の不足	通信網の破損
激甚	58	23	19	10
強度	46	29	8	9
軽度	47	25	5	13

表10 医師の自宅の被害度

	全壊・全焼	半壊・半焼	一部損壊	なし
激甚	25	23	38	15
強度	12	19	54	14
軽度	1	9	56	33

診した施設は激甚・強度地区で7割以上、軽度地区でも4割に及んでおり(表8)、すでに見たとおり、健診や出産のための病院・医院を探すのに妊婦が四苦八苦した実情を裏付けています。産科施設が休診に追い込まれたのは、建物の損壊もさることながら、ライフラインの途絶が大きな要因でした(表9)。

17. 医療要員

妊産婦の目に映った病院関係者のさまざまな姿を紹介します。「妊娠中でとても不安があったためどの病院が受け入れてくれるのかとても心配でした。今回この質問には関係ないが前の病院で診察を断われ35週にはいっていたため1週間に1回の検診を受けられず、かぜもひどかったのでとても不安だった。前の病院では他の病院も紹介してもらえず、出産後も連絡がなかった。その病院の先生が週刊誌に色々“地震の時に子供を取り上げた”とかボランティアで避難所で妊婦検診をしたことをとりあげられているのを読んでとても腹が立った」(北/北 2/4 39/経産/自然)。「地震の時は34週目ぐらいでした。その日は芦屋の山の方にある小学校の避難所まで歩き、そこで1日過ごしました。そこは人数もそれ程多くなく近所の方々がいろいろもってきてくださったので、あたたかくすごすことができました。妊婦は私だけでしたが、避

難所のすぐ近くにお医者さんが住んでおられて(産婦人科ではないけれど)“何かあればすぐ私にいいに来て下さい”と言って下さったので気持ちちがとても楽でした。その後、四国(徳島)までいき、□□病院で2回程検診を受け、また神戸に戻り親戚の家に住っていました。私のいとこたちが、みんな△△病院でうんでいたのも、○○先生にお願いし、○○病院で出産することにしました。急なことでしたが、こころよく受けて下さり本当にありがたかったです。また、入院期間も2週間にのばしていただきました。私の場合、何の問題もなく元気に赤ちゃんを産むことができたので、本当にありがたいことです。本当に○○先生にはお世話になり感謝しています」(芦屋/北 3/8 40/経産/吸引)。「先生が(病院はこわれていないのに)突然なんのフォローもなくさっさと避難したから、後に水とガスがないからという理由だけだと別の知人のお医者様からきき、今後の指示ぐらいはできるしカルテぐらいはだせらだろろうと思い非常に怒っています。地震より3カ月たってもなんの連絡もつかなかった。前述のとおり、地震の際、本当に心からお礼を申し上げたいお医者様もいらした反面、○○町の△△産婦人科は妊婦の状態(出産予定日)がわかっているにもかかわらず、病院、自宅にいくら連絡しても(地震後数カ月)直接たずねても“休診”のはりがみのみ。カルテももらえず、すべての検査をとびこみで

受けてくれた病院でやりなおした。診察をしなくても事務的なことぐらいでもいいと思う。あまりの常識のなさには不信感をもった。産婦人科学会の方より嚴重に注意をお願いします。△△産婦人科のどなたかは、○○大産婦人科だと聞いています。□□区では、この話は大変有名です」(東灘/東灘 3/10 -/経産/自然)。

「地震の後2～3日して検診にいったらすぐたくさんの患者さんでした。スタッフのかたもてんてこまいでした。そういうときにすぐにスタッフがそろえられるような態勢ができればと思います」(北/北 2/8 39/経産/自然)。「どのような災害時でもとにかく生ませてもらえれば幸いと思いました。今回の出産時はガスも水道も出ない状態で衛生的には決して良い状態とはいえないなかでの出産でしたが先生方や看護婦さんたちが普段とかわりなく接して下さっていたのがとても心強く救いになりました。今にも生まれそうでも生むところがない(病院がこわれて)人がたくさんいたと思います。そういう場合どこの病院へいけばいいのかもたくさんいろんな手段で情報があればいいとおもいました」(東灘/東灘 1/19 40/経産/自然)。「今回の震災は、特に例がないくらい被害が大きかったようですが、それにもかかわらず医療関係の皆様は、本当によくがんばっていらっしゃったと思います。自分のことはさておき、妊産婦をはじめ、ケガ人の方々にまでよく尽くされていた

と思います」(明石/西 3/4 39/経産/自然)。

「年明けから、自宅にて、絶対安静の状態だったにもかかわらず、地震後のあとかたづけ等で、病院に行くのがおくれたことが早産の原因だったと思われます。それまでかかっていた医院から○○のほうへ転送され、全くわからない状態でのお産でした。早産、地震、知らない病院と、不安なお産をのりきることができたのは、看護婦さん、助産婦さんの、暖かい励まし、力強いそして、堂々とした態度のおかげだと思います。また、未熟児であることがわかっていたため、小児科の先生がお産につきそって下さったことは何よりも心のささえになりました。やはり、非常事態のときこそ、プロの方々の堂々とした力強さ(抽象的ですが)を何よりも希望します」(伊丹/尼崎 1/18 30/経産/自然)。「心のケアが一番大切だと思います。まず災害後はやむをえずかかっていた病院と違う所で出産ということも多々あるのでその時に妊婦はとても不安です。その不安を解消してくれるのが先生や看護婦さんの接し方なのでそのところを気をつけていただきたいです。私もその1人でしたが先生や看護婦さん、そして同室のかたにはげまされそのお陰で気持ちが軽くなりました。本当に感謝しております」(兵庫/中央 1/17 38/初産/自然)。

「物質的な援助もさる事ながら、看護婦の方が、大変な中でその大変さを少しも顔に出さず

に頑張ってもらえる姿にとっても力づけられました。精神的な事がとても大切に思います」(灘/灘 1/20 43/経産/自然)。「産婦人科の病院は入院患者、助産婦、看護婦と女性ばかりで、震災の時の避難の様子を聞き、冷静に判断、行動できる男性の力が必要なのではないかと思いました」(伊丹/伊丹 1/18 40/経産/自然)。「出産後、母乳がいいというのはわかっていますが、なかなか出ない時でも授乳室の方の接し方が非常につめたく、毎日、授乳時間が地獄のようでした。初産ということもありいろいろ心細い時、ましてあの大きな震災の後精神情態も不安定な時なのでもう少しケアを心がけてほしかった」(東灘/明石 3/26 41/初産/自然)。「私は入院したとき1人だけだったので、余震がとてもこわかったのですが、看護婦さんが新生児室にいっしょに泊まって下さってうれしかったです」(北/北 1/17 38/経産/吸引)。「震災前に行っていた病院に通えなくなりましたが、赤ちゃんのおむつミルクなどを頂き、また事務員さんなどの対応がすばやく適切であったように思います。外からのニーズを無駄なく受け入れ対応できることを希望します」(東灘/北 2/26 39/経産/自然)。「医療や援助という面ではあまりわからないのですが、私にとっては助産婦さんの“何があっても、家に行っても産ませてあげるから”と地震直後に病院で私達妊婦に言ってくれた言葉がすごく心強くそして安心感をあたえてくれま

した」(垂水/須磨 3/8 39/初産/帝切)。

「水や食事、ミルクなどの必需品の不足よりも医師、看護婦、保健婦、助産婦といった方々の人手不足のほうがかたえました。精神的にも支えられることの多い医療関係の方々の素早く適確な派遣をお願いしたいと思います」(東灘/東灘 1/19 40/初産/自然)。「助産婦さんや保健婦さんの個別訪問があれば不安や心配が薄れるのではないかなと思う」(三木/三木 4/13 39/初産/自然)のように医療要員の派遣や出張が要望する声がたくさんありましたが、これは必ずしも手近な便利さを望むのではなく、「交通の不便な時、かえって検診を受けに行く方が体に負担がかかり、むくんだり、中毒症がひどくなったりする。電話で相談し、受診が必要な時は、往診してくれる病院や薬をもらえる体制がほしかった」(西宮/西宮 3/18 39/経産/自然)と記されているように、妊産婦の健康の悪化を懸念する理由を述べている人もあります。「避難所などにも巡回していただければ少しでも不安な気持ちがとりのぞかれると思います。検診はできなくても、問診だけでも、専門医にきいていただきたい」(西宮/北 1/30 39/初産/自然)。「妊娠中はそれまで順調にきていても災害などでまわりがあわただしくなると不安になったりするので臨時で先生に診てもらえる場所を作ってもらえると精神的に安心だと思います(助産婦さんや先生が回診してもらえるととってもうれ

しいですがムリですよね)」(尼崎/尼崎 3/23 39/初産/自然)。「助産婦さんや保健婦さんがまわってきてくださいました。話をきいていただだけでとても安心しました」(長田/須磨 3/13 39/初産/自然)。「地震の時精神的に不安だったので話を聞いてくれる人がほしかった。実家が近かったけど避難所に保健婦さんがいたのを見ました。血圧をはかるだけだったけどとても安心しました。病院に行くのは大変なので出張でみてもらえるといいと思う」(明石/明石 4/15 39/経産/自然)。「今回の地震で健診の時の待ち時間がさらに長くなった。妊産婦がもっと安全な病院へ集中したためであるが、交通が寸断されてしまっている所から来る人は、1日ばかりとなってしまう。予約制となっているが、全く役に立たない。非常事態であるから、仕方ないが、公立の病院なので医師を派遣するなど、方法はなかったのか」(西/西 2/20 38/経産/帝切)。「ホームヘルパーのように助産婦の資格を持つ人に登録してもらい、非常事態の妊産婦の急な体調の変化の際にかかりつけの医院または病院に連絡をすれば、自宅に助産婦さんを派遣してもらえるような組織を作るべきだと思います」(須磨/須磨 2/22 41/初産/自然)。

18. 行 政

このアンケートは妊産婦を対象とした医師に

よるものですから、医療関係者や病院についての意見はすでに見たとおりたくさんありましたが、行政に対する意見は“避難”などの章で記したもの以外、さほど多くはありませんでした。「今回の病院や市の対処は何につけても遅いと感じた。消防署で、近所の人が生埋めになっていると言っても、後にしてくれと言われた(救急車がすぐ近くまで来ているのに、進めず現場になかなか着かない)、地震当日の水、食料の配布がなかった、など」(東灘/須磨 3/11 39/初産/自然)。「神戸市では、今回の地震の被災者であり、かつ、妊婦である者に対して、無条件で、3年間すえおき無担保のお産のための費用の貸しつけを行なっていると、知人から聞きました。そこで、〇〇市でも、もしあるならと、かり入れを申し入れようと思い、市役所の方へ問い合わせたら、“保健所の福祉関係か、生活保護のようなところで聞けば、あると思う”と強くえらそうにいわれたことにとても腹が立ちました。特にここで述べることではないかもしれませんが、同じ被災地であったのに、市によって、そちが違うということに矛盾を感じました。ぜひ、このような制度をとり入れていただけたらと願います。そして、このような疑問が生じた時の110番のようなものをつくっておいていただけたら安心ではないか…と思います」(西宮/西宮 2/21 40/経産/自然)。「緊急時のライフラインの確保だけは万全にしてほしい。特に

財政にゆとりのあるはずの神戸市が、あたふたして全く期待できないのが歯がゆかった」(西/西 4/5 38/経産/自然)。「病院などでは地震や大災害の時は医療が大変なのであまり多くは希望できない。その分のフォローは保健所などが行えばいいと思う」(三原/洲本 1/25 39/初産/自然)。「行政サイドに何かを希望したからと言って、とうていそこまで手が回らないように思える。周囲の人々の心遣いになんとか苦難を乗り越えられたのだと思っている」(西/明石 3/14 39/初産/自然)。

19. 母 と 子

赤ちゃんが生まれてから数日間、お母さんがゆったり休養できるように、そしてまた、抵抗力の弱い赤ちゃんを細菌感染から守るために母子は別室で過ごすのが通例です。大震災でこの通例が破れたため、地震当日に出産した産婦の一人はお産直後から新生児と一緒にふとんに入ることになり、「寝不足でとてもイライラ不安がついた」と記しているのは以前に紹介したとおりです。しかし、母子を別室にするのは医師や看護婦に新生児の世話を安心して任せられる平常時の原則であり、大地震や余震の続く状況下での母子別室方式は母親に不安を感じさせます。「出産の時に電気や水道が止まらないかと心配だった。出産後母子別室であったため、

地震があり3階であったためよくゆれたので、其のとき赤ちゃんが心配になりました(そのとき赤ちゃん20~22人くらいいました)」(北/北 1/31 37/初産/自然)。「母子別室だったので、余震の時赤ちゃんがどうなっているか不安だったので母子同室にして欲しかった」(伊丹/伊丹 1/20 39/初産/自然)。「今回の地震で、水、ガスが止まってたので、毎日重い荷物を団地の5Fまでもってあがったりしたから、予定より少し早いお産になった。病院でも窓がガラスで、余震が来ると不安だった。何かあったら、子供とすぐ逃げられるように母子同室が望ましいと思う」(明石/垂水 2/3 38/初産/自然)。では、非常時には母子同室が望ましいかといえば、これまたたいへんです。「〇〇病院では地震後、大きな余震にそなえて各自自分の赤ちゃんを連れて避難できるようにと、急きょ母子同室にされた。その判断は正しかったと思うが、衛生面等、すべての状態がととのっていないなかだったので、各部屋に分散した赤ちゃんのケアをする看護婦さんも大変でなかなか手がまわらない感じだったし、親もミルクの用意やおむつの不足分をとりにあるいは沐浴にと、何度もカゼの菌のまんえんしたロビーを通して、新生児室へ往復し親もすごく疲れた。緊急時の体制として、各部屋にも備品が必要。赤ちゃんをおいて部屋を出る用事が多く外部からの人の出入りも多く、連れ去られないかと不安を感じたし、これでは

いざという時赤ちゃんをつれて避難できないと思った。夜間余震のたびにとびおきたが、もしもの時はどう避難するのかわからず不安だった。避難の仕方の説明も必要」(北/北 1/21 39/経産/自然)。同じ病院内で同室か別室かどこではない例もありました。「私の友人の話ですが、地震直後に出産したのですが子供だけ別の病院に移されて母子バラバラになったそうです。子供に異常があったりすればはなしは別ですが、設備等の問題もあるとは思いますが、できるだけ母子一緒にいられるようにして下さい」(東灘/北 4/3 41/初産/自然)。

年長の子たちがいる母親はさらに厳しい状況に追い込まれました。「お腹の胎児(母体)のみでなく、その兄弟達の安全確保(母親と離ればなれにならぬ様に)」(東灘/氷上郡 3/26 38/経産/自然)。「上の子供がまだ2歳に満たない幼児の場合、早産の為入院する事になりずい分まわりの人にお世話になりました。突然の地震で家も全壊し母子共にという生活ができませんでした。入院期間2カ月足らずの間、上の子供に会うことができなかったので、もう少し設備的になんとかなればと思いました。地震のショックもかなりあり母親として、子供の心のケアを必要とする時期でもあったからです」(兵庫/北 3/7 37/経産/自然)。「私の場合は実家と病院とも西宮だったので地震後に出産を控えていて上の子を実家に預ける予定が家が半壊で預け

られなくてとても困りました。2人目、3人目の出産は上の子が必ずいるので預ける施設をなんとかしてもらいたかったです。出産した病院では手術の日を主人の休みの日にあわせてくれたし、上の子がいるので入院を最低限にして下さって助かりました。他の病院でもやってもらいたいです」(伊丹/伊丹 3/10 39/経産/帝切)。「入院が長引く場合上の子供を預かってくれるところに困りました。親はむりで主人は仕事の都合上、朝が早く夜は夜中です。にゅういんの時ずっと保育所の友人にあずけ、土、日は友人が地震で親が入院のため、かんびょうであずかってもらえないので土、日だけ家に帰り月曜日に家に帰ってくるようにしました。医療も援助も大切だけれど安心して入院できる家のことや子供のことを考えず心配しないですむ方法をお願いします(妊婦の入院の場合は特に家のことが気になります)」(尼崎/尼崎 3/19 40/経産/自然)。

このような事情を思い浮かべて自分はまだ幸運だったと感じ、ほかの妊娠婦を思いやる人たち、「まだ生まれていなくてよかった。地震の時生まれていて実家に帰っていたら、たんすやいっぱいいたおれたので。そう思うとラッキーでしかない」(北/北 2/22 39/初産/鉗子)。「自分自身は特に困ったことはなかったのですが、まわりで、オフロやせんたくに困っていた人達がいて助け合いが必要だと思い声をかけ合いま

した。店に物がなくなるというわさが広まり、不安がありました。入院中、地震がきたらどうしようという不安は少しありました。産む前よりも産んだあと、赤ちゃんをかかえている人達は、オムツ、ミルク、くすり、おフロ、せんたくなどでとても困っているだろうと思いました」(洲本/洲本 3/22 39/経産/自然)。「出産前よりも出産後のことで心配が多いと思います(母乳の出が悪くなったときに、人工乳や赤ちゃん用のきれいな水、紙おむつなど、乳児をかかえて区役所などにもらいにいけない)。私は地震後すぐの出産だったので安全にしかも食べることやトイレも心配せずにすんだのですが地震の前に退院されていた方々はとても大変だったと思います」(灘/灘 1/19 41/初産/自然)。「私自身は余震で目覚めて破水して出産となりましたが地震そのものによる被害もほとんどなく病院も車ですぐのことろだったのでまだ良かったとは思いますが。全壊、半壊や主人の会社の被害状況などですごく大変だったひともおられると思います」(明石/明石 2/3 35/経産/自然)。

母子ともに障碍の一つひとつを乗り越え、体験を積み重ねながら成長していきます。「妊産婦や乳児専門の最低限の設備の整った避難所の確保、非常事態が長引いてくるとおなかの大きな人にたいしてのいたわり等関係なくなってしまう。又子供の泣き声などに気を使って小さくなっているのはかわいそうすぎる。何が起ころ

うと私が守るんだという母としての自覚をもたせてくれるような子育て経験のあるお母さんの話を聞ける場があれば母親教室の様なものも大事だがおばあちゃんの話の様なもの。出産前というのはとにかく回りに大事にされて具体的な母の自覚というようなものではありませんでした。産まれてひがたつうちにこの子には私しかいないんだと思ったけどもといぜんからこの様な自覚が必要な気がする」(北/中央 2/9 40/初産/自然)。

20. 非常事態で考えたこと

現代の医療設備は大部分が電気、水、ガスなどの供給を前提にしています。これらのライフラインが途絶えたため設備に頼れず、しかもそれとは無関係に進む妊娠、出産を無事になしとげねばならないという難問はどのように解決すればよいのでしょうか。ある妊婦は、「建物の防災設備の充実。災害が起こった場合の被害を最小限にするための訓練や処理の仕方を徹底すること」(津名/洲本 3/8 40/初産/自然)と簡潔に述べています。

これに対して、具体的な意見を記した妊婦も少なくありません。その一部を転記しましょう。「災害時急に陣痛がきた場合に通院している病院と連絡がとれなかったり今回のような地震でもし病院が全壊していたらどうすればいいのか

と不安になります。事前にマニュアルのようなものを作って下さい」(尼崎/尼崎 3/17 38/経産/自然)。「非常時にはみんなが皆大変だと思うので、事前に検診期間の間に“非常時にはこうしましょう、etc”という勉強・パンフレットを配布しておくといいのではないのでしょうか」(三原/洲本 3/7 41/経産/自然)。「自宅から出産予定の病院へは普段は車で30～40分位で行けるのですが、地震後交通事情がとても悪く、陣痛でもおきたら間に合うのか等とても不安でした。近くの産院にそんなとき急に行ってもよいものかわからずもっと普段より、非常事態の場合どうすればいいかを知らせていてもらいたい。例えばそのようなことを冊子にして母子手帳交付時に渡す等」(北/須磨 2/2 41/経産/帝切)。「妊産婦だけに限らず医師、看護婦だけに頼らず最低限個人ができる処置方法等学校の保健体育の時間に組み入れつつ、いかなる時でも対応できるようになっていたら助けあって少しでも早い治療等が出来るのではないかと思います」(川西/川西 1/30 38/経産/自然)。「このような災害で、分娩施設が使用不可能になった時など、急にお産の兆候があらわれてきた場合、自宅でも緊急に出産できる最低限の知識も母親学級などで教えていただきたいと思います」(須磨/須磨 2/27 39/初産/自然)。「雑誌で見たのですが、非常用の分娩セットというものがあるそうです

が、非常時や急にお産が早くなった時など、ハサミ、ヘその緒のバンドその他がセットされたものがある様です。そういうものを妊産婦に少しでもわけてあげればちょっとは心強いのでは…」(明石/西 4/6 40/経産/吸引)。

「人命救助を第一に考えて活動していただきたい。けれど今回のような大震災を経験し、テレビなどで神戸の病院の様子を見ると、どこまで病院側に要求できるのか考えさせられます。以前は家での出産が多かったと聞きます。現在は医療に関する道具が病院に沢山ありますが、スタッフの方々が、最小限(お産に関して)のもので出産できる知識をそなえてほしいと思います」(明石/神崎郡 3/14 39/初産/吸引)。「医療器械に頼らない診察を普段から身につける」(尼崎/西宮 3/9 36/経産/自然)。「万一、通院、入院中の病院が被害にあったとき、どこに連絡しどこに行けばよいのかを事前に周知しておく必要があるのではないか。又、最近の病院は設備器材が揃っており文明的といえるが、災害がおきれば文明が無力になる。主治医および看護婦を始めとして関係者は昔の“産婆さん”のようなことができるようにしておく必要がある」(尼崎/尼崎 3/8 37/初産/自然)。

「ずっと昔から人間は普段の生活の中で出産をしてきたわけですから例外的な難しいお産を除いては電気、ガス、水道などが途絶えていたとしても何らかの工夫により出産は出来るのだ

という知恵や安心感を妊婦に与えることは大切だと思います。もちろん緊急事態に素早く対応できる医療システムも必要だとは思いますが医療がなければだめという思いこみや依存をとりぞき落ち着いて自分と胎児を守る方法を考えてられるための情報提供やメンタルなサポートが得られる体制を希望します」(東灘/灘 4/12 40/初産/自然)。「幸い今度は精神的、肉体的被害が直接なくもとの病院で予定通りの出産をしましたが妊産婦でしかも子供のいる場合動けないこともあるのでこういうときだけは正式な医師、看護婦でなくてもよいから誰かとりあえずの救急班を呼べるとか事前にもしものときに自分でできることの教育のようなことも通り一遍ではなく必要ではないかと思います。今は病院にさえいければということが当然で、緊急のことを考えていない」(中央/中央 3/8 38/経産/帝切)。

21. 被災して体験したやさしさ

「災害にあう時は妊産婦であっても普通の時でもみんなが協力しあってがんばっていきたいと思います。私はこの度には何にも災害にあっておりませんがボランティアの方達の行動には大変感謝することがいっぱいこれから今の世の中やさしさのもった人間がたくさんいらっしゃることを期待しております」(明石/明石 4

/12 38/経産/自然)。「どうしても電車・バスに乗車したり、人の多くいる場所に行った時妊婦に対していたわりの気持ちが少ないように思いました。私も妊婦になる前はそうだったと気付きました。席をゆずってもらった時はとても嬉しかったです」(北/北 3/15 38/初産/吸引)。「今回の地震で大きなお腹だと思うように動けないのでお年寄りや体の不自由な方の気持ちが良くわかった」(尼崎/尼崎 4/5 40/経産/自然)。「出産予定日が、地震の日より1カ月以上も先だったので、たいした影響はありませんでした。近所の人達が心配してくれて、まとめて買い物してきてくれるなど援助もあり、とてもうれしかったです」(尼崎/伊丹 3/2 40/初産/自然)。「地震の当日の夕方から主人が会社へ行き3日間帰って来なかった。兄弟が水や食品などを運んでくれなかったら4Fまで階段だけの住宅で困るところだった。同じ住宅の人もいろいろ気づかって下さったので大変助かった。これらの助けがなかったらと思うと少し恐いです」(須磨/兵庫 4/12 35/初産/自然)。「親切にして下さればそれだけでじゅうぶんです」(西宮/芦屋 1/22 40/初産/自然)。

22. 多項目にわたる意見

以上はおもに一人が一つの項目について記した意見・感想・要望・提言などですが、複数の

事項について記したのも少なくありません。回答記入欄はそれほど広くはないので、用紙の余白や裏面にまで書き込んだ人も二、三にとどまりませんでした。そのうち何人かの文章を出産日順に紹介しましょう。

「◇停電の時などの非常電源の充実。◇消毒液その他の薬品類のストックの充実、又他院からのすばやい援助。◇妊婦またその他病人の非常食と飲み水(実際に困りました)。◇地震後暖房がきかず廊下の窓も割れ毛布1枚ですごく寒かったです」(東灘/東灘 1/17 39/経産/自然)。

「同室の初産の方は、震災当日陣発・出血したが引越して来たばかりでまだ妊婦検診を受けていなかったため責任がもてないと断られたと聞いた。私は主治医が当日〇〇病院に頼みに行って下さっていたため、安心して出産出来たが、他にも断られたりつぶれていたりで3軒目で出産した話も聞く。自宅に親族が避難してきたため新聞を読む時間も無かったが、震災時、受け入れ可能な産婦人科情報とか、産婦人科医療班の避難所訪問などは行なわれたのだろうか。また〇〇HpのDr.やナースは他院からの受け入れが多いため皆疲れて顔色が悪かった。非常時なのだから診療不能な他院のDr.やナースの手は借りられないのだろうか」(垂水/須磨 1/18 39/経産/自然)。「私は地震のとき妊娠10カ月で〇〇病院に入院していました。病院であの地震にあいました。それまでは△△病院に入院して

いましたが早産の可能性があるといわれ3カ月も家にも帰れず入院していたのに、地震で病院の全てのものがぐちゃぐちゃになったためまた△△病院にもどされました。結果そのほうがよかったのですがそのときの精神的不安がたまらないものでした。それと援助ではやはり入院中の食事が突然、ビスコになったりラップにつつんだおにぎりだけだったりとひもじいおもいもしたので食事の援助と手が洗えなかったりトイレの水が流れなかったりという感じだったので水の援助もほしかったです」(中央/高砂市 1/19 36/初産/帝切)。

「地震の4日後に出産をしたのですが、エレベーターが地震の為、故障をし、陣痛が間隔が短くなり、階段を使用していたら、落ちそうになった。又、出産が近かった為、病院の施設や機能がマヒしてないか心配だった」(伊丹/尼崎 1/21 36/初産/自然)。「私は大震災の5日後に出産しました。西区の自宅は何の被害も受けず、出産する予定だった病院も近所ですと検診を受けていた病院なので、そこで産むことも可能だったでしょうが、ガス、水道というライフラインに支障があり退院してからの生活を思うと不安で、結局親類を頼って北区に避難しそちらで出産となったのです。第2子ということもあり早くから子宮が開き予定より1週間早い出産でした。避難してまですぐにでも産ませてくれそうなびょういんを探すことになり、〇〇病院

に行きました。状況を話すと、婦長さんが出てこられて「この病院もガス、水道が使えません。食事面では満足いくようなことができないと思いますが、出産はできます。充分できます。ご安心を」とおっしゃいました。大変心強いお言葉でした。あの街全体、市民全員が非常事態のなか、出産を間近にひかえ不安で不安で…けれどもテレビのニュースから流れる被災地中心地の悲惨さを目にすると自分の持つ不安など口にするこゝとはばかられ…。そういうなかで婦長さんや、院長先生の落ちついた、穏やかな様子はありがたくて尊敬に値するほどです。患者にとって、医療のスタッフが信頼できるかどうかは、大変重要なことなのだとつくづく思いました。出産し、入院中もずっと余震が続いていました。余震にどうということもなく、にこやかに新生児の世話をし下さった若い看護婦さんたちにも頭がさがる思いでいっぱいです。余震がこわかったとはいえ、私は病院のスタッフの方々を心から信頼できたので「大丈夫」と心の中で安心できました。出産前にたった一度内診をうけただけでしたのに、これ程信頼できたのが不思議であり幸運だと思っています。一番最初にお話をした婦長さんのお言葉が良かったのでしょう。言葉がけて大切なのですね」(西/北 1/22 39/経産/自然)。「仕方がないとはおもいますが地震後2週間もたっているにもかかわらず(町のスーパーは通常どおりの営業に戻っ

ている)病院の食事はパンと牛乳だけという非常食しかでてこなかった。みんなそれだけではたりないので近くのスーパーでいろんなものを買って持ってきてもらっていた。ふつう、病院が先に食物の確保するのがあたりまえだと思う。それから私は陣痛がおこってからの飛び込みの入院だったのですが最初は受け付けで満室だということわられた。こういう事態なのだから断わるのはおかしいと思う(病院は救急用で部屋はあいているのに)」(西宮/宝塚 1/25 39/初産/自然)。「今回の震災当日陣痛が来ていたのですが地震のショックで陣痛が遠のいてしまいました。その日が妊娠検査の日で行くと一部停電と暖房がなくガスも止まり寒い外来で冷たい診察台に震えるようにして内診してもらいました。まず不安が一番でした。災害のレベルによると思いますが入院中も震災の関係でひどい病院食だった。ポカリスエットとパスパサのサンドイッチとかでも神戸の方よりはいいと思い耐えてましたが入院費用はしっかり40万円支払いました。こんな震災をうけながらもどうして入院分娩費が通常とかわらないのでしょうか。こんな不安のなか出産し余震のなかベビーを抱えふるえながら乳首をすわせ完全母乳を誓い努力しているのに妊婦は安心することが一番の条件だと思います。分娩費の助成があってもいいのではないのでしょうか。これは家屋の破損だけに関わらないと思います」(川西/川西 1/25 41/経産/自

然)。「地震のあった日は、一日中ふるえが止まらず、常にお腹ははった状態で眠ることができず次の日に病院に行くと足位(28週目から骨盤位ではあった)になった為、入院させてもらった。その病院へ行くにしても交通渋滞でタクシーもなかなかきてもらえずこまった。病院内では非常事態で先生や助産婦さんたちも大忙しで自分達の家や通勤も大変なのにいつも笑顔で接してくれてとても心が安まりよく眠れました。節水の為、10日程シャワーもあびれず、食事も一時はパンだけのときもあり母乳がでないところまっていた人もいました。でも私の入院していた病院はとてもよくしてくれて安心してすごせました」(尼崎/尼崎 1/26 37/初産/帝切)。「ただでさえ、妊娠、出産に対して不安なことが多いのに加え地震などの災害による精神的ショックはかなりのものであると思います。私自身いつ産まれてもいいといわれていたけれど余震がくるたびにおびえ、自宅も病院も水道、ガスがとまり生まれてきたらいったいどうなるのだろう、次同じような地震がきたら赤ちゃん守り切れるだろうかなど不安はつのるばかりでした。このような状況のなかで、①母子手帳がなくても安心して誰でも受けられる検診 ②何でも相談できる窓口のようなもの ③妊産婦と家族の受け入れ家庭 ④おむつ、ミルクなどの消耗品の確保 ⑤妊産婦の食事の確保(ガスがとめられ栄養がかたよりがちでスーパーに物がなく一

家庭に牛乳1本、卵1パック、ラーメン4つまでなど制限されていた。妊産婦のいる家庭は優遇してほしい) ⑥地震に備え分娩室などの安全対策(医療器具、薬剤の入ったビンが入っている棚の固定などー ぜんぶたおれてきました) ⑦出産時の病院までの搬送手段(私は道路がこんでいて破水したけど、バイクでいきました)」(宝塚/宝塚 1/26 38/初産/自然)。「水道、ガスなどストップし家にも住めない状態でお腹に赤ちゃんがいる妊婦は周りの家族が災害以上に気を使いかえって妊婦が目の前にいるとみんながそれで精一杯になるので妊婦だけでもすぐに一時入院や避難できる病院がほしいです。家族が安心していただけることができれば災害など大変な時には本当にそれだけでも他のことが手につきかたずけていくことができます。妊婦としても足手まといになりません。特に私は分娩予定日時だったためいつどこで生まれてもおかしくない状態のなかテレビなどで妊婦の人さえ救急車も呼べない状態(使ってはいけない)ではとても不安でした。神戸のほうでは生後1カ月もたたない赤ちゃんをだいたまま避難することさえできない自宅で待機し救急車もきてくれなくて困っているお母さんをテレビで見ました。そういう人達をもっと早く救急車やヘリコプターなどをつかって安心して育児出来る場所へ運んでくれる手段をこれから考えていただきたいと思います」(伊丹/伊丹 1/27 41/初産/自然)。

「震災前は〇〇病院にかかっていて震災後〇〇病院でのお産が出来るのか不安になりすぐ電話したところ“一応産めますがある程度不自由はおかけすることになりますし、検診はいっさいおこなわずお産の時に来てもらうことになります。どうしても体の調子が気になるようならば近くの産婦人科で検診のみうけられてもいいですよ”と看護婦さんにいわれ少し逃げ腰の態度にとても不安を感じここではもう産めないと思いました。第1子もそこで産んでおり第2子も是非とおもっていたのに残念でした。すぐ近くで大きな病院を探したところ比較的被害の少なかった△△病院があることを知り迷わず外来で1/23に受けその週のうちにお産になり早く決断してよかったと思いました。産後看護婦さんに聞くと外来を1度もうけずにきても産めずたらい回しだということを聞きびっくり致しました。やはりこういう場合はなるべく受け入れる体制をつくっていただきたいと思いました。それと新たにかかったということで血液検査もまたされてしまい不安な時期で栄養もとれないなか又血液をとられることがつらかったです。金額も高くもし全焼でもしていても何もない状態の妊婦さんなら大変なことだと思いました。やはり非常時にはカルテの病院から病院への転送とか母子手帳に記入するなど大事なことはカルテ同様にかけるようにしておいてほしいと思いました」(垂水/西 1/28 38/経産/自然)。

「水や食糧等が断たれた時の各医院等への緊急輸送体制の確立(水くみや食糧の確保に追われて職員が倒れ、出産予定日の2日前に転院を余儀なくされたのは言葉で言えない程ショックだった)。夫は震災後復旧の仕事に忙しく、臨月の妊婦一人で水くみの長蛇の列に並ぶのは大変重労働で困難であるので水と、できれば食糧の配達と介護で使う様なフロの巡回」(西宮/姫路市 1/31 40/初産/自然)。

「今回の地震などで私は大丈夫だったけれど友人が流産しました。異常にきずきすぐに119番したそうですがだめだったということで。そのような際でも車の中で何軒かの病院に電話をしてその時間がかかりあったとか。出産などということは予期できないものだから妊婦、そして産婦人科医の先生も大変だと思うけれど、生命の誕生という大事業に関わるのだからやはりもっとスピーディーに妊婦を病院に運んでもらうようにしてほしい。又これは私の体験だけれど今回の地震で水が出なくなった。人手がないため私も9カ月の体で給水車のところに並んだが結構大変だった。自分でも普通に出産できたのが不思議だが、産婦人科にもかならずくみおきをしておくべきだと思った。その点私が出産した医院はくみおきの水があるということで心配はなかったが」(北/北 2/5 39/経産/自然)。「妊娠9カ月からすでに子宮口が3cm開いており早産止めの薬を服用し、1月からは毎週検診

を受けなければいけなかったのに病院へいく交通手段がなく、地震から1週間後神戸市兵庫区で無料の検診があったが遠方で行けず、地震の翌日水をもらうため小学校の校庭で2時間並んだ時はとても大変でした。その後も2才の娘の手をひきベビーカーにペットボトルを数本つんで毎日水をもらいに行きました。一度もボランティアの人には会えませんでした。お風呂にも大変困り入浴できたのは地震から2週間後、片道30分歩いて自衛隊のお風呂へ、近くの避難所になっている小学校にあったらと思います。色々大変でしたが無事元気な赤ちゃんが生まれ病院のDr、ナースの皆さん、病院まで搬送していただいた救急隊員の皆様に感謝申し上げます」(芦屋/芦屋 2/7 38/経産/自然)。「一時は、自宅かマイカーの中での出産も考えた。地震の次の日、やっと通じたTELで〇〇病院にかけたが、“分娩がこちらでできるかどうか分からない”と。今までずっと長い待ち時間も頑張って通院してたのにもかかわらず、別の病院の紹介もしてくれもせず、全くどうしたらよいのか、とほうにくれた。倒壊してパニックってるのもわかるけど、“他で分娩できる病院を自分で探してほしい”ぐらいの返答はしてほしかった。前の病院で全ての検査を終えていたのに、カルテが持ちだせず、分娩を受け入れてもらえた病院で、再度血液から検査のしなおしで、痛い思いも2倍だし、それよりも何よりも、保険がきかない

自費払いの出費も倍になったことに不満をおぼえている。前の病院で母親教室、両親教室も受けて立ち合い分娩をする予定だったのに勝手も違い、何もかも違う環境で、ただでも不安いっぱいのお産なのに、立ち合い分娩ができず、不安だったし、残念だった。でもぶじお産させてもらえただけでも感しゃしなればと思いつつ…」(長田/加古川市 2/9 40/経産/自然)。

「地震後、大変歩く事が多く、寒さも手伝って、大変おなかが張りましたが、病院は生死にかかわる人や遺体が多く、とても診察して頂く気分になれませんでした。まだ、ミルクをのんでいる赤ちゃんをお持ちのお母さんがとても気の毒で、赤ちゃんは1時間もまてませんから、その援助をまず一番に考えてあげて頂きたいと思います」(西宮/西宮 2/16 38/初産/吸引)。

「地震でたんすのしたじきになり赤ちゃんのことが心配だったが病院が外来診療をしているかどうかわからず電話での問い合わせもできず不安だったのでそういう情報を流して欲しいと思う。地震後避難所でも自宅でも十分なバランスのとれた食事をとることができなくなるのでむくみがでてきてしまった。食事の面で何か援助していただけたらと思う」(西宮/伊丹 2/18 40/初産/自然)。「西区は被害がほとんどなかったのですが今回の地震で余震で不眠、それからゆれるたびに血流がとまったようなかんじで赤ちゃんがビクッとしているのがよくわかり不安

だった。また瀕尿になってトイレばかりいっていましたが水が流れないし自分で水くみもできないので水のでない間(西区で3日ほど)ずっと便秘でした。避難所等に行かれたかたの苦労はひどいものだったとおもいます。そこで今回のようなことが再びあったら妊婦さんは一時的に優先的に例えば今回なら大阪や西のほうに(加古川等)すぐ避難させてあげてほしいとおもいます(無理だとはおもいますが)。また乳児の紙おむつ、ミルク用の湯とかはどうしていたのかとおもいます。本当に大変だったろうと思います。やはり被災地から最優先に一時的に脱出するしかないと思います。しかし老人や障害をもった人でさえ脱出できなかったのですから。援助としては紙おむつ、ミルク、水とカセットコンロ、おしりふき等をわすれないでと希望するしかないかもしれません」(西/西 2/19 39/初産/吸引)。

「◇交通事情が悪く、急に産気付いても病院へかけつける方法が無かった。救急車にしても道路事情が悪く進まないことはわかっていた。そのためバイクを購入し、万一に備えた。結果的には私は不安でしたが ◇一部、赤ちゃんに”コーヒー牛乳を飲ませた”ということを知りました。おむつを変えてやれないMilkがないということは親にとってホントにつらいことだと思います。必要物資がいち早くゆき届く、交通事情の対策が必要だと思います ◇もともと通っ

ていた病院へ通うことが出来ず、家から最も近い医院で健診してもらいました。気持ち良く受入れて下さって有難かった」(明石/西宮 2/26 39/初産/自然)。

「お風呂に入れることー1週間にいちど実家まで渋滞のなかお風呂に入りには帰った。家族の意識(妊産婦への理解)の向上を促すーみんな自分のことで精一杯で嫁として忙しかったがそれがあたりまえのようだった。実家が”お風呂に入りにはきて”と電話してきても誰も”行こう”と言わなかった。2歳の娘もおり、おむつをしていたのに悲しかった。情報の徹底ー当日主人の実家まで様子を見に行った。兵庫区だったのがテレビにも写らずあんなにひどいとは思わずまた主人とはなれるのもこわくて大渋滞のなか到着。すごいショック(街の様子)、火事のそばをとおるときも下を向いていた。怖かった」(西/西 3/6 41/経産/自然)。

「私の場合、ちょうど、33週位だったけれど、主人が10日位仕事を休んでくれた事で、気持ちが落ち着いて、別に医療や援助に希望する事はなかったのですが、知り合いが生後2カ月の子を連れて長田の避難所にて、母乳がでなくてミルクが必要だったのですがなくて、私達垂水のあいている薬局でミルク、おむつを買い届けました。届けたのも2日位あとだったと思います。だからそれまでは、水もでなかったらしく、おしりもみんなのつばでふいてやっていたらしく

いです。おなかの大きな私よりも、小さな赤ちゃんのいるお母さんの方がよっぽど大変だっただろうと思います」(垂水/須磨 3/12 40/経産/自然)。「地震の翌日出産した友人の食事があまりにも質素だったのにはおどろきました。水も、ガスも無いので仕方がないと言えばそれまでですが、これから母乳を出さないといけないお母さんにカンパンだけだったので、びっくりしました。これも、ガスが無かったのですが地震後、検診にいくと暖房が無くて、内診台で、下着をぬがなくてはいけなかったのが寒くてつらかった」(尾崎/西宮 3/14 38/初産/帝切)。

「私は、4人目の子供がお腹にいました。上の3人はまだ小学校にも入っていない幼児で避難所に行くことすら大変でした。私は祖母がなくなり祖父も9時間うまっていて、近くに住んでいた私達が全部助けたりしないといけなかったのですが、体を動かすだけでとにかくお腹がはってはって涙が止まりませんでした。お薬を頂いてずっと毎日飲んでいました」(長田/須磨 3/21 38/経産/吸引)。「私の場合、家も割合被害が少なく、困ったことといえば、水・ガスが出ないこと、食糧が手に入りにくく、家族の生活を進める上で不便だったことぐらいでしたが、それでも、ストレスや疲れから、出産の時は、“羊水がドロドロで、これ以上出産が遅れていると赤ちゃんもあぶなかった”と言われました」(西宮/西宮 3/22 39/経産/自然)。

「1. おふろ→水道とガスがなかなかでなくて、お風呂に入れず困りました。一度近所のお風呂やさんに並んではいったのですが、寒い風のなか長く待って中に入ると着替えも含めて20分で出なくてはいけない状態でした。おなかの大きい妊婦にとっては大変でした。 2. 地震直後→病院の入院患者にかんづめがでたんです。妊娠中毒症の人にもあんな塩辛いものがでたことを聞いておどろきました。緊急時にだせる食事を用意してほしいです」(兵庫/兵庫 4/3 40/初産/自然)。「ビタミン剤その他の配布やもっと早くお医者様が避難所へきて下さるとか、その後受ける検診を無料にして下さるとか、大阪へ行ったがけっこう冷たくあしらわれ、うちではみれませんと言われた。受け入れてくれる病院が少ない(私の場合8カ月半だったためと思われるが)」(東灘/明石 4/5 40/初産/鉗子)。

「〇〇病院などは震災後けがや病気をされている人を優先に入院させていたので、産科などは震災の前から通院していた人のみ受け付けますということだったようで、病院側もベッドも先生もおられないので受け入れられないのはよく分かるけれど、実際、震災前から通っていた病院に通いたくても交通手段がなく通えない人や、病院が倒壊してしまったり断水などで機能しなくなって、通っていた病院にも断られた人もおられたようなので、ケガ人や病人同様に妊産婦のことも考えてほしいと思った。それから

電車も使えなく、道路も規制されているときの病院へ行く交通手段も考えてほしい」(須磨/中央 4/7 37/初産/自然)。「地震後すぐ、やはり7～8カ月の体での水くみは大変でした。避難所に行きたくても寒くカゼをひきそうでしたし仕方なく家にいましたが、避難所にいないと食料がもらえないなんて不自然。母子手帳を見せたら何とか優先にして欲しい。自分にではなくお腹の子供にレトルトばかりでは赤ちゃんがかわいそうだった」(芦屋/垂水 4/8 38/初産/自然)。

「私の主人は〇〇市の中学の教職員です。ご存じの通り、学校には避難者があふれ死体の安置場所でもありました。その避難者や死体の管理に交替制とはいえ教職員が24時間つかわれるのです。交通が復旧していませんから、一度学校へ向かうと何日も戻ってこれません。わが家だって断水にあわて、食糧確保に忙しいというのにこんな時に主人がいなくなると本当に困るんです。ポリ容器に配給された水も妊婦には負担が大きいのです。よそのお宅は3つ4つとポリ容器を持ってきているのに、運べない私はひとつかふたつ。早産なんていってられずバケツの水だって何度も持って階段を昇りました。精神的にはもっと大変でした。余震にはおびえ、主人の安否をきずかい電話も通じませんでしたから)赤ちゃんの無事を祈りながら当初1週間が本当につらかったように思います。私の場

合、お風呂に入れなかったのがカンジダ膣炎のきっかけになり治るまで1カ月程かかったので衛生的には優遇されたかったですが、不可抗力ですし、1週間くらいの食生活ではそんなに影響もなくむしろ体重増加がなく良かったくらいです。精神的なケアが欲しかったです。せめて夜中ぐらい主人と一緒にいれるように職場で配慮してくれるとか、休んでもおおめにみてくれるとか、妊婦や小さな子供のいる家庭では核家族が増える中大変です。ボランティアと看板下げて食糧ばかりまき散らしていますが、食べ物を支給するばかりでなく、必要とされる場所、内容にもっと応じてくれれば我々の負担ももう少し軽かったんじゃないでしょうか。最初の1週間が悪夢のようでした。主人のいないストレスが(今でも仮設住宅等の関係で勤務時間が長いですから)産後も母乳不足になったり赤ちゃんの泣き声にイライラしたりと影響あると思います。2人で赤ちゃんを育てようと実家の援助は受けなかったので主人の分まで背負った私は産後2カ月はマタニティーブルーだったように思うし、主人とのけんかも絶えなかったです。現在は赤ちゃんの笑顔に励まされしんどさも忘れていますが」(尼崎/伊丹 4/12 40/初産/吸引)。「早産を止める薬を確保したかった。援助では妊娠中より生まれてからの方が大変だと思う。物資的にも、おむつ、水、ミルクが手に入らなかったと聞きます。精神的にも赤ちゃんをかか

えている方が大変。私は妊娠中で、かえってよかったと思っています。破水してから病院まで6時間かかりました。緊急時、自家用車でも早く行ける方法も考えて下さい。1時間も走れば豊富な食料は売っているのに入院先での食事は実に粗食でした。暖房も水もないのに平常料金なのには誠意が感じられませんでした」(垂水/中央 4/12 26/初産/自然)。「私の経験で申し上げますが、今回の地震で皆お困りなのが見えるだけに、色々な面でがまんをしてしまいました。外傷等がなかったのも、本当は不安でたまらなかったのですが、検診をすぐ受けられなかったこと(かかっていた病院が診療できず、他の近くの病院は、出血等なければ後日にしてほしいとのことだったので)、車は通行できず、電車が通る駅には何十キロあり、とにかく不安でした。又、水くみや買い物等長時間、寒い所でたちっぱなしであったり、もう赤ちゃんに会えないのでは…等すぐ考えてしまう毎日でした。市町村で、せっかく母子手帳を配布しているのだから、その名簿等活用して、妊婦に対するケア等できなかったのかと思います」(宝塚/宝塚 4/17 38/初産/鉗子)。

23. 1924人の意見分布

本書にはアンケートに回答をお寄せいただいた1924人のうち、2割に満たない人たちの意見

しか収録していません。全体から見ればほんの一部に過ぎないとはいえ、370人ほどの意見を紹介すれば、およその全体像を推察してもらえるのではないかと考えたためです。大勢の記述の中からどれを本書に採り入れるかの選択は、第3章に記したことをはじめ、すべては編集者の独断で決めました。もともと取捨選択という作業は物品を対象としてならともかく、本書のような場合にはいかにその理由を並べようと寝覚めの悪い仕事であることは否めません。出産後間もない人たちの上に震災の影響がまだ厳しく尾を引いている時期であることを無視するような形で、数多い質問への回答だけでなく、大きな災害時に備えての意見を記してほしいというわずらわしいアンケートに応じていただいた妊産婦の皆さんにあらためて心から感謝の気持ちを表し、この人たちすべてに対する最低限度の礼儀として、表11には1924人全員の記述内容を項目別に分類して掲げました。数字はそれぞれの項目を記された人数です。

表11 記述内容の項目別一覧表

◇ 避 難 所	
避難所や自動車の中で暮らした	26
避難所は早く開いてほしかった	1
避難所は寒かった、防寒具の用意を	15

避難所は衛生環境・人的環境が悪い	9
しんどい、つらかった	4
避難所で体調をくずした	3
避難所には薬・物資を備えて	4
避難所でも検診できるように	16
避難所で検診があり、よかった	2
避難所で親切にしてもらい感謝	1
避難所・仮設住宅へは妊婦の優先を	10
地域ごとに避難所を明確にする	1
安心して休める場所が必要・住居確保	129
妊婦は専用施設・被災地外へ避難させよ	39
仮設住宅の抽選にもれた	3
◇ 不 安	
余震・夜・胎児の安否などが不安だった	107
病院の被災状態がわからず不安だった	33
予定の産科施設で出産可能か心配した	53
地震で体調をくずした	9
食事に気を使った、異常に食べた	4
重労働不能、動けなかった	3
トイレに困った・トイレの確保	12
母子の安全を確保してほしい	17
精神的なケア・安心が必要	179
相談できる人や窓口が必要・～に感謝	79
あの異常事態ではがまんしかなかった	1
◇ 物資の援助・確保	
援助はなかった、知らなかった	1
避難所以外では援助がなかった	2
援助物資で助かった	1

全般的に物資不足だった	8
援助物資の配布をすばやく	11
物資の分配が不公平、適切でなかった	8
配給の行列に並ぶのがつらかった	8
救援物資の配布に妊婦を優先して	4
衣料・暖房具の援助を	32
食料が必要・空腹でつらかった	74
食料不足のため栄養がかたよった	31
妊婦には減塩食が必要	7
食物アレルギーの子の食事がたいへん	4
乳児用お湯・ミルク・衣料などの確保	143
出産用品の支給を望む	10
◇ ライフラインなど	
ライフラインの強化を	18
電話の不通・混線に困った	27
停電しないように	2
ガス停止に困った	8
乳児のいる家には水・(ガス)の配慮を	4
水と電気が必要	12
水が必要、水不足に困った	113
水と煮沸器具があれば	5
給水の行列・水運びに苦勞した	58
水運びの手伝いがほしかった	12
風呂の水をわかつて飲んだ	1
風呂に入りたい、入れず気持ちが悪かった	82
公衆浴場の行列がつらかった	7
赤ちゃんだけでも入浴を、できなかった	16
簡易コンロなどで湯を沸かし入浴した	1

入浴できないから消毒剤・洗浄綿配布を	14
入浴できず健康障害が起き(かけ)た	9
妊婦は優先的に入浴できるように	5
妊婦は一般人と別に入浴したい	6
せめてプールのシャワーが使えたら	2
◇ 交 通 マ ヒ	
交通マヒに困った	20
交通手段の確保が必要	49
緊急車両優先、これが不能だった	4
緊急車両を増強すること	9
ヘリコプターの活用を	7
交通マヒで受診が困難・不能だった	47
(救急車で)妊婦の優先移送を望む	33
妊娠後期に長時間・長距離を歩いた	8
万一に備えてバイクを買った	1
◇ 情 報	
すばやい(正確な)情報を望む	62
情報のわかる窓口を設けてほしい	7
どこで受診・出産可能かの情報が必要	150
ラジオなどで診療情報があり安心した	7
ラジオなどの情報が実情と違っていた	1
病院は患者へ情報・指示を流すべきだ	54
病院にせめて張り紙でもしてほしい	5
病院からの電話で安心、嬉しかった	21
デマを打ち消すように	2
避難せよとの情報に困惑した	1
◇ 医 療 要 員	
医療要員・一般職員が不足していた	12

他の医療施設から応援が必要	17
産科医師の常駐待機を	3
緊急時は医師・保健婦・助産婦の派遣を	31
受診困難の妊婦には往診を望む	21
病院からの出張検診で助かった	2
やさしさ、励まし、信頼できるように	29
やさしさ、励ましの言葉が嬉しかった	22
医療要員の対応に感動・満足・感謝	33
医療要員の対応に疑問・不満を感じた	10
最少限の資材で検診などできるように	4
非常のさいは男性医療要員の力が必要	1
◇ 医 療 施 設	
緊急時も診療・出産できる施設・体制を	198
居住地区に大きな病院がほしい	1
非常用に病院のリスト配布を	2
災害時には時間外診療も(24時間態勢)	19
災害時には医療施設へ避難したい	7
早期入院・入院の継続をしたかった	19
(入院)患者の避難訓練がたいせつ	4
病院は常に患者の数・状況把握が必要	11
医療施設の損壊・混乱がひどかった	30
病院に重症者・遺体が多く受診を躊躇	1
妊婦は受診の長い待ち時間がつらい	8
地震後の早期受診を望む、これが不能	118
早期受診できず健康を損ねた、早産した	4
早期受診・早期入院ができた	4
受診・入院ができなかった、断られた	44
診療・出産できねば他院の紹介を	56

紹介状なしでも受診できるように	20
他院を紹介してもらえなかった	5
紹介状なしでも受け入れてもらえた	1
他院を紹介してもらった	6
紹介された他院は遠くてダメだった	2
転院した・させられた	27
転院しなくてもすむように	18
転院先へ今までの経過がわかるように	19
転院せずにすんだ	4
ともかく出産でき(てよかった)	11
医療施設の対応に満足・感謝	35
対応が不十分・不満・不快	29
病院間の連携がたいせつ	38
連携がよかった	2
連携が悪かった	6
病院は安全で安心できるように	24
病院は耐震・耐火の構造に	7
医療施設(に)はライフラインの確保を	41
自家発電などの設備を	12
病院に水がなかった、水の確保を	24
水が確保されていてよかった	3
病院で入浴できるように、できなかった	20
入浴できて感激	2
病院のトイレの水洗ができなかった	4
水洗トイレが使えるホッとした	1
病院で暖房が使えず寒かった	17
病院は毛布の用意を	3
病院は医療資材の備蓄を	3

病院の食事が不十分・不満	18
乳児食・食料品の用意を	19
オシメなど乳児用品の備蓄を	10
乳児用品などを病院で貰えた	3
病院へ援助物資を届けること	5
◇ 医 療 費	
非常時は医療費援助が必要・援助なし	67
被災者の医療費は後払い・貸付けに	5
診療・出産費用が高い	4
経済面で苦勞した、金銭的援助を	12
転院で再検査のため検査費がかさんだ	10
◇ 母 子 健 康 手 帳	
検査結果などを詳しく記入できるように	7
他院への紹介状代わりになるように	1
通行証として使えるように	1
非常事態への対処法を書いておくとよい	2
産科施設の一覧表を添えてはどうか	1
◇ 行 政	
他府県からの援助が必要	1
対応が遅い・対応に不満	6
生き埋めされても救助されなかった	1
非常用品の備蓄を	5
妊婦の家庭を保健婦・助産婦が訪問して	8
◇ 家 族 ・ 身 近 な 人	
病院では母子同室を望む(別室は不安)	5
新生児と同室だったので疲れた	2
幼児の世話もせねばならず困った	23
(避難)同居した親族に助けられた	2

同居者からストレスを受けた	3
緊急時には主人が仕事を休めるように	2
やさしい言葉・行為がほしい	17
やさしい言葉・行為が嬉しかった	6
近所同士の協力がたいせつ、助けられた	16
ボランティアの育成・への援助が必要	16
◇ そ の 他	
その場になってみないとわからない	1
大災害の時はあまり多くを希望できない	1
今回の地震はあまり非常事態すぎて――	1
それほど困らなかった、恵まれた方だ	51
自分より他の妊産婦は大変だったと思う	12
被災者のことを見聞し気の毒に思った	19
老人・障害者の気持がよくわかった	1
正常な生活に少しでも早く戻りたい	4
衛生面の配慮が必要	25
スムーズ(迅速)な対応をしてほしい	11
非常事態の母子に援助を	2
妊産婦は病人でないという考えは問題	2
バッジなどで妊婦であることを示す	1
妊産婦・乳児の優先を望む	33
妊産婦を優先する必要はない	1
医師・助産婦に頼らぬ出産の知識・用具を	8
平素から非常事態への対応策を	23
緊急時の連絡先を明らかにしておく	1
早産した・早産しかけた	2
ヘリコプターの音がいやだった、今も	1
エレベータ停止のため階段昇降に苦労	5

家屋・家具の下敷きになった	6
身辺に大きな物は置くな(倒壊の危険)	1
外傷を受けた	1

この表では項目数が多いので、これらをもとにして主要な提言をまとめようかと考えました。しかし、どのような問題を重視するかは個人の立場や考え方でかなりの差があるでしょうから、今後の大災害に対応するため上表から何を読み取るかは読者の判断にお任せすることとします。

24. 追 悼

高架の高速道路やがっしりした構造に見える鉄筋のビルさえ地震であっけなくつぶれた地域では、一般の民家などひとたまりもありませんでした。いままで紹介した文章の中でも、家屋や家具の下敷きになった生き埋め体験を何人かの妊婦が記していましたが、お気づきになったのでしょうか。人は妊婦を優先することができて、地震は見境なしに住民を襲います。前章までに妊産婦のさまざまな手記を収録しましたが、この大震災について、本来なら誰の発言よりも重い証言が本書からすっきり抜け落ちていることにふれないわけにはいきません。

6400人ほどに及ぶ大震災の犠牲者の中には妊婦も含まれていました。序文で述べたアンケートには、「診ておられた妊婦の中で、地震のため

死亡された方がいますか、あれば、その人数を”という質問があり、これに対して1人と答えた医師が5人、2人と答えた医師が1人ありましたから、妊婦の震災死亡者数は7人となります。しかし、これはあくまで主治医が確認して回答した人数であり、この質問に対する回答率が75%ほどであること、妊娠の初期その他の理由で妊婦が診察を受けていない場合もあること、震災に伴った混乱で主治医が妊婦の生死を確認できなかったことなどのため、震災による実際の妊婦死亡数は上記の7人よりずっと多く、理論計算の結果では21人と推計されます(*)。最も厳しい状況に遭ったため、ひとことの被災体験すら言い遺す機会も永久に奪われてしまった妊婦、お母さんのおなかの中で母親とともに、あまりにも短い命を断たれてしまった赤ちゃんの運命を想うと、言葉ありません。

震度5かこれを少し超える程度と推定される地域(表2で「軽度」に分類された地域)の住民の中には、大地震の揺れで飛び起き、まだ明けやらぬ早朝、停電した暗闇の中で、震源地が地

(*) この推計結果によると死亡した妊婦は震災死亡人口 300人に1人の割合ですが、震災死亡者は50歳以上が71%と高齢に傾いているため、被災死した妊婦の割合は一般の人口に占める妊婦の比率に比べると半分以下になっています。

元とは思ってもよらず、すわ、第2次関東大震災だ！と直感した人が結構たくさんありました。地震は東日本、台風やそれに伴う水害は西日本という思い込みは、私たちの頭に根強くしみ込んでいたようです。神戸中心の大地震を予測した人が皆無だったわけではありません。神戸市の委託を受け、1972～3年に多岐にわたる調査をした京大防災研究所や大阪市大理学部地震学者たちは、六甲山中を走る数多くの断層が神戸市街地にも続いており、将来都市直下型の大地震が発生する可能性はあり、壊滅的な被害を受けることは間違いないので、その対策調査に十分な組織と期間が必要と結論づけた報告書を提出していました(*)。この調査担当者の一人は、行政が危険性を楽観視していたと語り、逆に、予想された被害があまりにも大きいのに圧倒されて、対策を考える姿勢が腰砕けになったという意見もありますが、いずれにせよ、せっかくの報告書も現実面には役立てられなかっただけでなく、一般市民はこの報告書の存在すら知りませんでした。知っている人は知っていた、わかる人にはわかっていた、しかしほとんどの一般人にはコトが起こるまで何も知らされていなかった、というのはよくあることです。大震災の前年まで神戸市が年中行事として実施していた防災総合訓練実施計画書には、訓練想定とし

(*) 神戸新聞、1995年1月31日付。

て、”――梅雨前線は――各地に記録的な集中豪雨を降らせ――災害救援活動を実施中、マグニチュード7の地震が発生し――”とあり、訓練参加者(おもに公務員)は10時15分に本部席前に整列、12時30分に訓練終了と記されています。マグニチュードと震度の区別があいまいであり、訓練とはいえその内容があまりに現実離れしているこの計画書を見ると、行政側がこの程度では一般市民が地震にむとんちゃくであったのはむしろ当然という感じがします。

大震災のあと、地震に関するおびただしい書物が出版されました。神戸市立中央図書館がこれらの資料を集めた”1.17.文庫”には2000冊をはるかに越える書籍が棚に並んでいます。その中から活断層の地図を見ると、地震は東日本、台風・水害は西日本という思い込みに反して活断層は中部地方と近畿地方に多く、活断層のない県はほとんどありません。中部・近畿以外でも、関東地方から北海道の太平洋側に、また、四国・九州の間から沖縄へかけては、プレートと呼ばれる巨大な岩盤が互いに競り合っているのだから、日本のどこに住んでいても地震とは縁の切りようがないのです。マグニチュード4以上の地震が30年間に起こらなかった県は数えるほどもないことを示した別の地図もこのことを裏付けています。

あなたの町では大地震などの災害に備えて対

策が練られていますか。調べられた結果がどこかに死蔵されてはいませんか。あなた自身についてはいかがですか。なにぶんにも大地震という相手はあまりにも手ごわいので、完全な対策が一度にできるわけではありません。行政も医療機関も個人も、できることから一つずつでも対策を積み上げていただけたら嬉しくありがたいことです。何よりもまず、あなた自身のために、あなたの家族や町のために、そしてまた、この大震災による直接間接の打撃で亡くなった犠牲者の鎮魂のためにも。

25. 常二備へヨ

震度7を記録した烈震地帯に平行して、これより6km北側に連なる六甲山系の稜線は、休日や山の遊歩で楽しむハイカーでにぎわっています。10年ほど前、昨今流行の華やかなリュックサックとは異なり、簡素の極致ともいうべき袋を背負って歩いている人を前方に見かけました。好奇心のままに歩を速めてその直後まで追いついたら、その袋には印刷された5文字がうっすらと残っていました――常二備へヨ――。

1938年7月5日、前日まで降り続いた雨はこの日一段と激しくなり、六甲の山肌をはぎとりながら、30トンほどの巨岩をも巻き込むすさまじい土石流となって神戸から宝塚までの市街地を直撃しました。河川の流域では道路上の水位

が3mに達した所もあり、死者・行方不明者695名に及ぶ大惨事となったのです。現在の神戸市東灘区を東西に分ける住吉川の周辺は最も被害の大きかった地域で、川沿いにある甲南小学校の校庭には、上記の阪神大水害を永く記憶にとどめるため、“常二備へヨ”の文字を刻んだ石碑が据えられています。はじめに記した背負い袋は、この水害のあとで、非常袋として配られたものに違いありません。この水災を記念する石碑は上記にのほかに“有備無患”や“禍福無門”と刻まれたものなどいろいろありますが、阪神大水害の惨状を自らの眼底に焼き付けた世代の7割がすでにこの世を去った今、石碑の近所に住む人たち以外には、神戸市民でもこれら記念碑の存在を知る人は絶対少数派というのが現実ではないでしょうか。

阪神・淡路大震災の記憶を風化させないよう、石碑のみでなく、地震で崩壊した現場の一部そのままだが神戸の海や山などに保存されています。

26. みんな元気ですか

大震災の辛苦に耐え抜いたお母さんから生まれた赤ちゃんたち、みんな元気に育っているのでしょうか。あれから3年ほどの年月が過ぎて、お兄ちゃん、お姉ちゃんになった子どもたちも少なくないことでしょう。この子たちが成人して、もし本書に目を通す機会があったら、どん

な感慨を抱くことでしょうか。

大地震の不意打ちといった非常のさいに真価を発揮するのは知識より智恵、マニュアルより臨機応変の発想であると悟った人は少なくないと思います。共通の苦難にさらされた時、思いもかけぬ人の善意に感激したり、自由な発想に感心したりという体験が復興への意欲を支えました。

壊れた道路を修理するため、レンガを寄贈しようという呼びかけも震災が生んだアイデアの一つです。有志各自が震災について、思いつくままの短い言葉を記した原稿を所定の寄金に添えて事務局(*)へ送ると、原稿の文字がそのままレンガに焼きつけられて、神戸の元町3丁目をはじめ車両の通らない繁華街などの路面補修にまとめて使われるという仕組みです。茶褐色のレンガに黒い文字ですから、あまり目立たないので、足元にこれらのレンガが一面に並んでいることに気づかないまま通り過ぎる人の方が多いようですが、このレンガを知った人たちの中には、“踏むところに敷くのは人のご厚意をふみつけるようでちょっと心にひっかゝります”とか、“皆様の心のこもったお言葉の上を、とても土足で歩けませんでした”などの感想をもらす人もあります。しかし、初めから人の歩く道路

(*) 神戸レンガ・プロジェクト事務局。

☎ 078-512-2590.

に敷くことを前提に賛同者を募っている企画ですから、レンガの表面がすりへって字が読めなくなるほどのにぎわいと活力を取り戻せるようにと願う考えもあっていいのではないのでしょうか。人通りがさほど多くない時間帯を選んで、レンガの文字を拾い読みしていたら、次のように記されている1枚が目にとまりました。

おなかの中で地震を体験した琴音

神戸の町と共にたくましく育って

神戸市 松井賀規 淳子 琴音

編集後記

兵庫県立図書館や神戸市立中央図書館には、阪神・淡路大震災についてさまざまな分野からこの3年間に出版された本が特設書棚にぎっしり並んでおり、小さな本書を刊行するなど、なにを今さらという感じがしないでもありません。岐阜県大垣市から香川県坂出市まで十数館の公立図書館を調べたところ、被災地から離れた都市ではこの大地震を主題とした本の蔵書数が、首記の両図書館より1～3桁^{けた}少ないことがわかりました。神戸市内だけでも地域による被災度の差はきわめて大きく、これが震災に対する地域住民の考え方や感じ方にかんがりの地域差として反映されているのですから、震源から遠い地方の図書館で、この震災に関する蔵書が桁違いに少ないのは当然です。

本書は多人数の手記で構成されているだけに震災が市民の目で多角的にとらえられているという特長があり、今後の災害でだれもが体験するような事項がほぼ網羅されている点で参考になろうという考えから、本書を全国の主な公立図書館(*)へ献本するとともに、医療・保健関係の図書館へも寄贈することにしました。

(*) 原則として1995年度の貸し出し数(1997年度版の図書館年鑑による)が多い240館(兵庫県内は全館)。

震災直後に見られた建物の破壊は目を覆うばかりでした。3年たった今、町の中心部はなんとか整備されたものの、だれにも看取られず気づかれないまま、ひっそりと息を引き取ってゆく人びとの絶えない仮設住宅に、今なお多くの市民が暮らしていることを引き合いに出すまでもなく、被災の傷痕は目に見えにくい形で増大しているように思われます。本書で紹介した妊産婦の手記をどのように受けとめるかという問題も含めて、震災克服の出口に着くまでどれほどかかるのか、まだ見通しはききません。

小宅からひと駅向こうには、被災者を支えるボランティア組織の一つがあります。ここに入りする人たちも地震直後にはそれぞれ血相変えて走り回っていたのではないかと思います、短距離競走型の活動は長続きしません。急性期を過ぎ、今後いつまで震災関連の仕事にかかわり続けるのか、おそらく本人たちにもわからないことではしょうが、ごく当たりまえのことをしているだけという感じのする彼らの顔を、時折り眺められるような「地の利」に恵まれているのは幸せなことです。

わずか60年の間に大水害、空襲による壊滅、大震災と3度の惨禍に見舞われたふるさと神戸の片隅でこの原稿を作り終えたあと、ひと休みしながら、自分にこれからできることは何かを考えてみたいと思っています。

(M)

本書についてご意見やご感想をはじめ、疑問、苦情などありましたら、下記へお寄せください。なお、甚だ勝手ながら、診療業務の都合上、電話での連絡はご容赦願います。

〒654 (1998年2月2日以降は 654-0074)

神戸市須磨区高倉台1-1-1

兵庫県立こども病院 周産期医療センター

大橋 正伸

大震災・母と子

阪神・淡路大震災を体験した妊産婦373人の発言

1998年 1月17日 発行

発行者 兵庫県産科婦人科学会
兵庫県医師会

発行所 神港ジャーナル社
神戸市中央区三宮町 1-10-1
神戸交通センタービル 8F